

ふかんど通信

発行 谷津干潟友の会
習志野市谷津3-25-11
TEL.0474-51-5044

工事前の谷津干潟での写生会



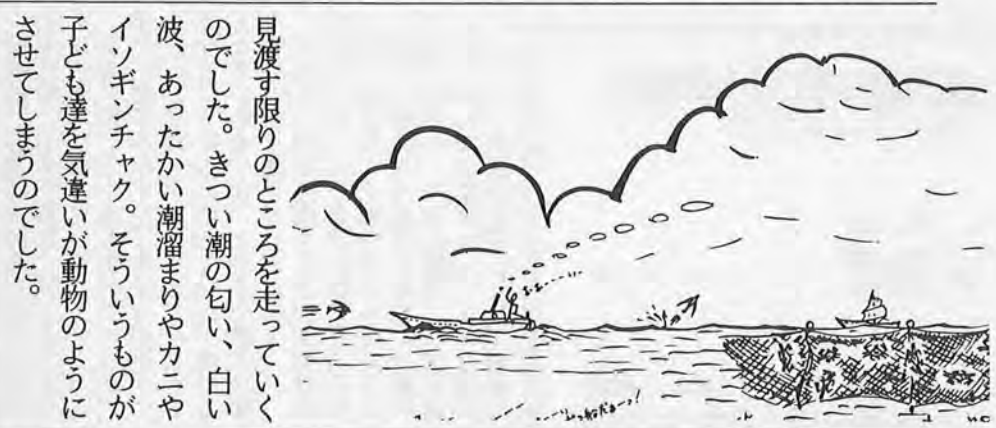
楽園の子供達

19 絵と文 森田三郎

ポンポン船と「船みち」

ポンポン船と、目にしみるような青みどりの海を、真っ白い波をたてて「ポンポン船」が走って行く。その音に驚いた魚たちが、あちちでもこちちでも、ピョーンピョーンとはねまわるのでした。トビウオもとび上がって、水の上をすべるようにして飛んでいくのが見えました。

した。煙突の先から、白くて丸い輪の煙が次々ととび出し、ポンポンという音が水面を伝って、干潟で遊んでいるぼく達の方にひびき渡ってくるのでした。ポンポンと音をたてて走るから、みんなは「ポンポン船」と呼んでいました。その頃のぼく達はもう大きな遠浅の海に出ただけで、うれしくって、はしゃぎたくって、大きな声を出して叫んだり、とびはねたくってしようがなくなってしまうのでした。それはきつと、赤銅色に焼けたぼく達ごとどもと、広くて大きな遠浅の海のせいでもあったのでしょう。



市議会から

5月臨時議会は議長選挙

◆新メンバーで構成された習志野市議会の議長・副議長選挙が五月十七日に行われ、次のように決まりました。

議長 ◎田久保清一(民友会) 15票
小倉 政之(公明党) 5票
宮内 一夫(社会党) 4票
吉田 順平(共産党) 4票
相原 一誠(同友会) 1票
立崎 誠一(新生力) 1票
三浦 邦夫(日心会) 1票
森田 三郎(水と緑) 1票
副議長◎平川 博文(習政会) 16票 (以下略)

また、各会派の構成は次のとおりです。

習政会	5名	公明党	5名
社会党	4名	共産党	4名
平政会	4名	政和会	3名
民友会	1名	同友会	1名
日心会	1名	新生力	1名
なつしの水と緑の会	1名		

* * * * *

◆なつしの水と緑の会 森田三郎は、再び建設常任委員会委員・公害対策審査会委員として活動することになりました。

なにから、なにまで



森田三郎

前回にもまさるご支持を頂きました。きほんとうにありがとうございまして。ここに、厚く、感謝と御礼を申し上げます。私たちの選挙は、文字通り「手作り選挙」。全員がズブの素人です。父ちゃん母ちゃんをはじめ、犬の散歩も兼ねてソレ行けヤレ行け。お金を払った運動員は一人もいませんでした。みんな、それぞれ忙しい仕事や家事の合間をぬって時間を作り、それをつぎはぎして繋ぎ合わせ、運動が支えられました。

一期目は正直いって疲れまじり。生活のサイクルや中身がガラリと変わってしまったからでしょう。二期目にはぞむ今、市の機構や議会の様子が分かってきたので、少しは余裕が出てきました。

最後に今回、袖ヶ浦から視覚障害者の山口善良氏が立候補なさいました。相談を受けたときは余りにも告示日が迫っていました。惜しくも落選してしまいましたが、再度立候補し、是非こういう人が議会に入ってくれるよう、強く願っている次第です。

訂正 前号で習志野市の面積が「千葉県でいちばん小さい」とあつたのは「浦安市について二番目に小さい」の誤りでした。お詫びして訂正します。

楽しみました！選挙戦

きれいな選挙で勝つたのが何より嬉しいー 最近、感動するところってないものね。普通の女性の体験記。

干潟の呼びかけ

谷津三丁目 佐藤智美子
谷津に引越して来て一年、目の前に広がる干潟に心の安らぎを感じていたある日、一枚の「ふかんど通信」が目止まった。

「ふかんど」？ 森田さんって、どんな人？ 読みおわって、すっかり感動した私が、ビラ配り募集の広告に応募した事から森田さんのお付き合いは始まった。この人のためならと、選挙運動のお仲間に入れて頂いた。すでに街はポスターの洪水だが、我が陣営は選挙管理委員会の掲示場所だけ。その他数々の制約を完全に守って、選挙戦開始となった。

集まる人は会社員、主婦、自営業のご主人。みんな素人ばかりの手作り選挙。私も初めてマイクを握ってみたがなかなかうまく声が出ない。それでも窓から手を振っている人、子どもたちの声援に勇気も湧いてきた。そして本当にこの人を市政に送りたいという気持ちでいつしか声も出始めていた。

日ごとに候補者の口調も熱っぽく、全員が疲れを忘れたかのように走り回る。時には徒歩で辻説法。森田さんの生の声が、支援者の声から街へ。あまりの熱の入れようで、口もうまく回らない。でも、みんな充実しきってそれぞれの持ち味で切々と語りかけている。

いよいよ残り時間も少なくなった最終日、車が干潟の横にさしかかったとき、突然、森田さんは語りかけた。「鳥たちよありがとう。小さな生き物たち、ありがとう……」

声は夕日に映える干潟の隅々までやさしく包んでいた。長い年月、干潟を愛し守り続けた人にしかできない、感動あふれた一幕だった。

私は全国の人に伝えたい。金権選挙の汚名のついた千葉県の中で、こんなクリーンな選挙が行われたことを。また、この経験によって私が今まで抱いていた嫌悪感は、いつしか清々しいものに変わっていた。そして、すばらしい人達と知り合えたこと、この美しい習志野の住人になれた事の幸せをしみじみ噛みしめている。

私生活の楽しみ

谷津三丁目 真野房代

市会議員選挙の応援、それは数カ月前の私には全く無縁の他人事でした。それがどうでしょう、森田さんが立候補すると聞くと、こういう人には是非また市議会に出てもらいたいという思いが募って、生まれて初めてウグイス嬢ならぬウグイスおばさんになりすまし、マイクを握って町中を走ったり、歩いたりしたわけです。

正直いって楽しかった。選挙の応援が楽しいって？ そうなんです。集まってくる仲間の気持ちのよさ。純粋な気持ちで他人のために尽くす喜びと爽やかさを知ったこと。自然を愛する多くの人々と友達になれたこと。

当選御礼の旗を持ってJR津田沼駅で道行く人々に頭を下げたことで、やろうと思えば何だって出来るんだ！ 恥ずかしくなんかあるものか！ 自分という人間が一度むけたような気がしました。

そして何よりも近くで森田さんに接し、教えられたこと。それは人間として生きていく上に必要な信念、実行、誠実、感謝という心の大切さです。今後、習志野市から、こんなきれいな、さわやかな選挙をする方がどんな立候補してほしいですね。皆さん、ありがとう。学びの場を持ってたこと心から感謝します。



谷津に住む主婦です

谷津五丁目 S・W

私は谷津に住む主婦です。選挙のお手伝いは二度目になります。最初のときは割合自由な時間があったので、一週間、目一杯お手伝いできたのですが、今度の選挙では勤めの関係で、朝の駅頭挨拶程度しかお手伝いができませんでした。

前日も駅で挨拶をしましたが、今回の方がちょっと余裕だったかしら。というの一回目のときは、何もかも初めての体験で、「お早うございます。よろしくお願いたします」とおじきをするだけで必死だったからです。今度は、一人一人の顔をしっかりと見て、心からの挨拶ができました。これも、前回のトップ当選の誇りがあったからだと思います。

投票日は長い一日でした。夜になって当確が決まった瞬間は、我がことのように嬉しくて、涙が止まりませんでした。改めて森田さんの人気と信頼性を目のあたりにした気がします。これからも、ますます頑張ってください。

秋津三丁目 Y・N

秋津三丁目 Y・N

「ちっともポスターを見かけないけど森田さん今回は出ないんですか」という声を聞きながら選挙の準備にとりかかったのが三月末。ポスターが出来上がったのは四月に入ってからだ。事前にポスターを掲示するつもりもなから、それでも充分間に合った。さて告示となり、本来ならば公設の掲示板以外には一枚もあってはならないはずの選挙ポスターのおびただしい

こと！ 違反はポスターに限ったことではない。選挙カーと選挙事務所以外には候補者の名前や写真を明示してはならないのに、名入りのハッピー、ジャパー等、違反、違反、違反だらけ。しかも警察の前で堂々と！

埼玉から応援に来た人は「習志野には選挙管理委員会はないんですか」と呆れ返っていたが、冗談じゃない、選管では事前説明会でちゃんと説明し、文書でも通達を出している。

この駅前でも派手に林立している候補者名入りの幟に、「われわれがあまりに正直すぎるんじゃないの？」という声も出た。しかし、「やはり、いけないことはないんだから、やらない」と。「正直」の上になんかつかさずである。だから、選挙カーで特に違反のひどい候補者の事務所の前を通ると自然に声のトーンが上がってしまふ。「クリーンな選挙で頑張っている森田三郎です」と。

前回と同様、運動員は全てボランティアで人件費ゼロ。みんな楽しんでからの心配が全くなかったから、違反の心配が全くなかったから。そして、こういう選挙運動の結果がトップ当選という形で現れたことに、たまらないほどの爽やかさと喜びを感じる。次の選挙の時には、あなたも仲間に加わりませんか！

パンチで選挙の音

袖ヶ浦一丁目 宮入梨子

十年前、谷津干潟のすぐ近くに引っ越した時、谷津干潟は、ゴミの山とへドロの匂いに満ちていた。切ない思いで干潟を眺めていると、麦わら帽子をかぶり、腰までの長ぐつをはいた男の人が、どろんこになって黙々とゴミを広い集めていた。捨てる人が多い昨今、たった一人で嫌な仕事を苦にもせず働いているとは！

それが、森田三郎さんとの衝撃的な出会いであった。谷津干潟の霊力に引きずり込まれ、干潟を自分の体のように愛しく思わなければできない仕事である。実践力、一途な情熱、私利私欲にとらわれない誠実な人。こんな森田さんこそ、市民の代表として市議会に

送りたい人だと思ひ、森田さんの自宅の事務所へ選挙の応援に駆けつけた。集まってきたのは、私には初めて会う人が多く、選挙戦についても、ほとんどの人が未経験の素人である。そこで、アイデアを出す人・看板を書く人・車を運転する人・留守をみかめる人・マイクを握り森田さんの辻説法に同行する人と、それぞれの個性を生かし合い、協力しあつての選挙戦となった。「智恵と個性と力をつなぎ合わせるの素人選挙だから、こういうのを、パッチワーク選挙」って言うんだよ。事務所中に、どっと笑い声があがった。

谷津五丁目 佐藤康子

谷津五丁目 佐藤康子

森田さんの選挙を手伝ったのは二度目ですが、今回もとても良い経験をさせてもらいました。といっても前回と同じく、全くの素人選挙で、何が何だか分からないうちに、あわたたしく終わってしまったのですが、森田さんの一生けんめいに選挙に取り組み姿には驚きました。行く先々で必ずマイクを持ち、自分の声でじっくりと政見を訴える……。けっして流暢ではなかったけれど、どれも本当のことだから、迫力がありました。

応援する私達も同じで、美辞麗句でかざる必要もなく、言いたいことを言わせてもらいましたが、みんな本当のことなので、下手でつかえて聞きにくくても、皆さんが耳を傾けてくれたのではないのでしょうか。

選挙はつらい、森田さんというイメージがあり、実際、森田さんや中心となつて働いた人は大変だったでしょうが私にとつては楽しくもありました。森田さんのような、組織のない、手弁当で集まった人だけで選挙をした人が、トップで当選するなんて、言葉では上手に言えないけれど、ぞくぞくするほどうれしい気分です。一人での議員活動はたいへんでしょが、弱い市民の味方となって、がんばってください。

市議会議員選挙費用決算報告

(1991・3・28~1991・4・20)

収入の部	
寄付・カンパ	401,000
自己資金	1,000,000
収入計	¥ 1,401,000
支出の部	
広告費	211,122 (スピーカー・アソブ購入、看板)
印刷費	248,951 (紙ター 250枚・リーフレット他)
交通通信費	37,277 (選挙車・伴走車ガソリン代)
食糧費	113,293 (運動員 昼・夕食)
雑費	28,314 (ビニルボックス・雑貨類)
支出計	¥ 658,961
差引残高	¥ 742,039

※1 選挙期間中の運動員労務無償提供 ¥ 696,000 (6,000×延べ16人) (公職選挙法により 1人1日6,000円として換算)
※2 『ふかんど通信』 『ふかんど通信PART II』の印刷費は含まず。

ふかんど通信

発行 谷津干潟友の会

習志野市谷津3-25-11

TEL.0474-51-5044



恐竜とカニ

谷津干潟公園化の工事が本格化してきた。すでに南側は護岸が一部崩されて、アシが生えるのを防ぐためだろう、目の細かい網を敷き、その上に砂を入れて陸地を作っている。

森田さんが、数カ月かかって、シャベル二丁で掘った「メダカの学校」の池も、流木と芦で作った「いそしぎ」の小屋も、水上観察舎も、パワーシャベルの威力で、あっという間に姿を消した。干潟内部にはできるだけ手をつけない、というのが公園化に際しての原則である。舗装道路さえ割って芽を出してくるアシが、あの網で抑えられるのかどうか。二〇センチ程度に盛った砂が、潮の干満で流れてしまわないのか。新しいミオ（潮の通り道）がどう出来るのか。危ういバランスの上になり立っている干潟という場所が、人間の思うようになっってくれるのかどうか。わからないことばかりだ。

大きな建設機械が活躍するのを見て、単純に感心できた昔が懐かしい。自然を「保護」するためには、人間が手を貸さなければならぬこともあるのは分かる。だが、パワーシャベルがまるで恐竜のように見える。その足もとに小さなカニが穴を掘っていたのが救いだっただが……。

(N)

楽園の子供達

20

絵文

森田 三郎

ホタルを呼ぶ子どもたち

「ほーほー、ホタルこい。こっちのみいずはあまあいぞお。あっちのみいずはかあらいぞお。ほーほー、ホタルこい」

「いんどおー、おおー、えっぺえ飛んでんどおー。すげえやあー」
「見てみいん、ホタルばっけだあえっぺ（たぐさん）だあ、えっぺいんなあー。来いよお、とってかえらけん（帰る）べよおー。みんなあ来いよおー」

谷津干潟のすぐそばで、かつてこんな子どもの、ホタルを呼ぶ声や唄が聞こえた頃がありました。それはもう、今から三十五年以上も昔のことでした。

「いろは溜め」なんて呼ばれていたたぐさんの池がありました。まわりに草が生え、木も立っていました。谷津五丁目の方には「しばり水」といって、水がチョロチョロ出ていたし、小川や野原のところでどこには「湧き水」もありました。

田んぼや野原の間を、くねくねと流れて来た小川には水車が回っていて、ブツレかけた小屋の中で粉をついていた。そしてまた、水が溜まっている池の土手には、田んぼに水をくむための風車が何台もありました。昼間、そういう所を歩くと、カエルが「キュッ」「キュッ」と鳴いて、次々と岸辺から水の中へチャポンと音を立てて飛び込んでいくのでした。浮いた木や水草の上では、カメが昼寝をしていたり、トンボが止

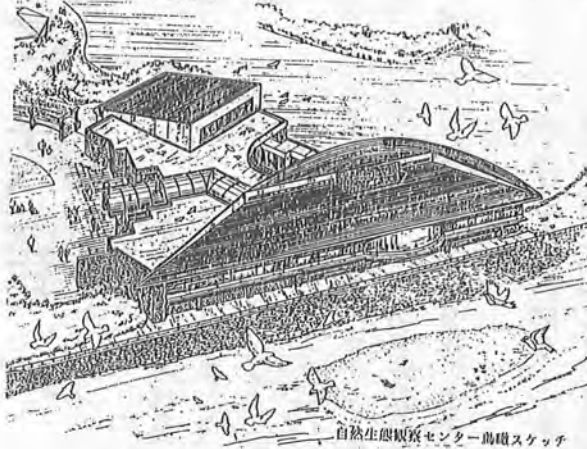
まって休んでいました。草むらの中からそっと水の中を見ると、大小のメダカの群れが泳ぐ「メダカの学校」もありました。メダカはもちろんのこと、フナもドジョウもクチボソも、水草や岸辺の草のかけが大好きでした。

でも、夜は違っていた。その同じ所には、今度はホタルたちがたくさん飛ぶようになるのでした。ホタルは水辺が大好きでした。夏の夜空の星とは違うふうに光っていました。小さく静かに、不思議に……。その光りをジッとみつめていると、なんだか、吸い込まれるような感じになってしまふのでした。ぼくたちが昼間遊んだおんなじ所に、こんなにいっぱいホタルがいるなんて……。うれしさと不思議さ、そして誇らしさの子ども心でした。

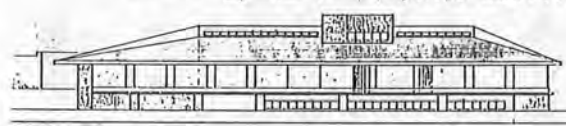


谷津干潟 自然公園

「習志野緑地（第2期）基本設計業務 基本設計の概要」
公害防止事業団 より

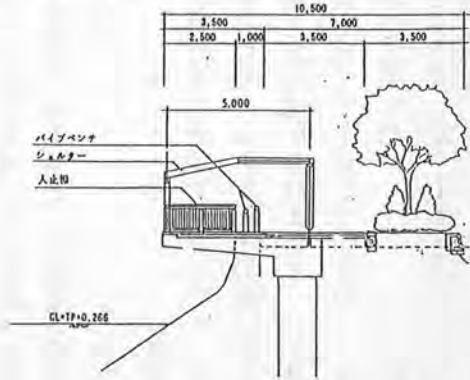


自然生態観察センター鳥籠スケッチ

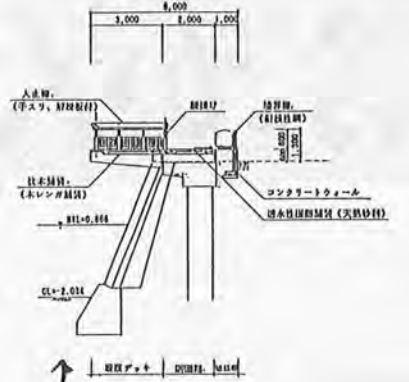
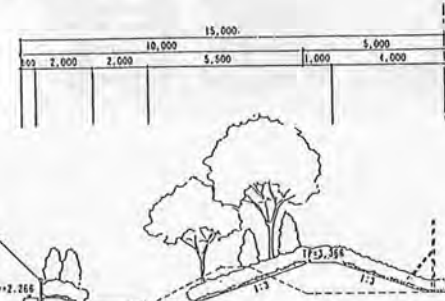


干潟側立面図

観察シェルター
谷津3丁目側に2か所 手すり、説明板つき



パークタウン側園路 幅2m 植栽帯
平成4年3月末完成予定

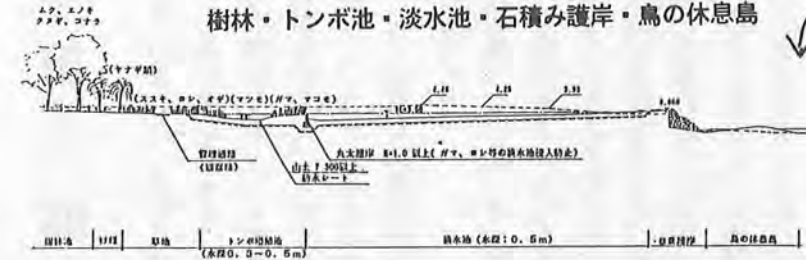


観察デッキ
津田沼高校側に2か所
干潟に張り出し 手すり、解説板
腰掛けもある

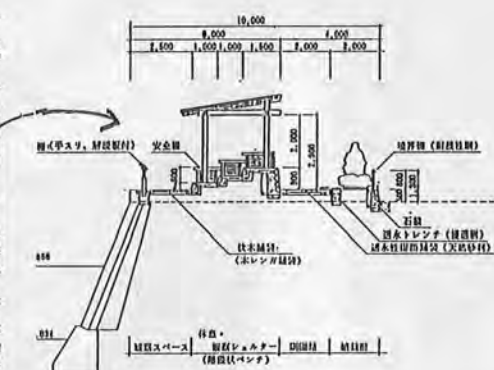
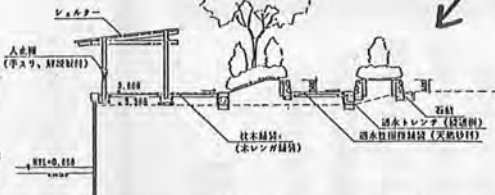
自然生態観察センター
小学生2クラス80人を収容できる
教室・展示観察コーナー
延べ床面積は1800平方メートル
映写室、売店もある
平成3年度実施設計
平成4年度工事着手



樹林・トンボ池・淡水池・石積み護岸・鳥の休息島



観察シェルター
湾岸道路側に2か所
説明板 床は木レンガ



観察シェルター
階段状ベンチ、手すり、解説板
シェルターで人の姿は隠れて鳥
には見えない

カルガモを養子にした

谷津干潟も今日この頃ともなると、渡鳥も旅立ってしまひ、カルガモの夫婦や子ガモが水面を静かに泳いでいる風景が見られる。その干潟で生まれたカルガモのヒナが迷い込んで、今、家族の一員となって生活している。これが取り持つ縁で森田さんとも知り合いになり、カモも一命を得た。
名前も三郎とガタ子とつけた。早いもので、一カ月たってしまった。元気に水遊びをしてゐる。好物はダンゴムシ、ミミズ、ホテイ草である。
この儘、何時までも家においてやりたいと思ふが、何時の日か別れの時もあるであらう。これもこの世の定めと思ひ、二羽の親鳥になったつもりで夫婦で一生懸命に保護をしてゐる。
おひまの時にでも来て、観察してください。木戸は開けてあります。庭のウインドケースの中におります。自由においでください。
習志野市袖浦一の二三 加藤一雄



ことのはりゆき

加藤さんがカルガモのヒナを保護したのは、六月十一日の夕方。自宅前の道路を三羽のヒナが歩いていたのを通りがかりの人が見つけ、加藤さん宅に声をかけて預けていった。加藤さんは森田さんに電話し、谷津干潟美化委員会の中村谷子さんが行徳野鳥観察舎の蓮尾嘉彪・純子さん夫妻に問い合わせ、飼育法などを教えてもらった。
保護したときの体重は一羽が二〇〇グラムであとの二羽は二五〇グラム。二六〇グラム以下では成育は難しいという蓮尾さんの話だった。保温のためにこたつのヒーターを利用した。
最初は食パンを水に浸して口に入れてやった。翌日からは金魚の餌やアヒルのヒナの餌を与えるとよく食べた。湯呑み茶碗にダンゴムシを入れて与えていたら、湯呑みのコンコンという音や、奥さんの呼ぶ声で食べにくるようになった。現在は体重が四〇〇グラムになり、順調に成育している。

ひとこと、ねんのため

夏の初めは鳥たちの繁殖期で、カルガモばかりでなく、親にはぐれた幼鳥に出会うことがあります。人の姿をみて親が一次的に身を隠していることも多いので、まず、遠くから見守って、親が現れないか確かめてください。親鳥ごと「保護」してしまつたという話も聞いたことがあります。これは保護ではなく、「捕獲」ではないでしょうか。野鳥の飼育は一般的には法律で禁止されています。加藤さんの場合も大変な苦勞をして、育てたのです。

ふかんど通信

発行 谷津干潟友の会
習志野市谷津3-25-11
TEL.0474-51-5044



谷津公園・芝生広場にて

楽園の子供達

21 絵と文 森田三郎

木々の梢は ヤンマのお宿

毎年、夏になると、木の梢にはたくさんヤンマたちがとまって羽を休めていました。どこから飛んで来て、とっついて梢にとまると、誰も知りませんでした。後から後からやってくるのでした。風のない、炎天の日がとくに多かった。そして海や沼や田んぼのある木立の南側が好きでした。

ヤンマにはオンジヨ(ギンヤンマ)、エロボー(オニヤンマ)、ヒラキ(ウチワトンボ)がいた。みんなそれぞれ、とまるところが違ってました。オンジヨは低いところが好きでした。エロボーは高いところにも低いところにもとまると

ました。ヒラキはとんがった所やてっぺんが好きでした。

一匹だけでなく、つがいのままでもたくさんとまっています。つがいにもいるいるありました。ホカケ、ナンガ、ジヨウナンガ、大ナンガと、そんなふうに呼ばれていました。時々、四匹も五匹もつながったまんま、とまってもいい。けれども、天気が悪くなって、雨や風の日には来なかった。

ほくたち子供は、トリモチやワモの巣や網でもつつかまえた。木の下に行つて、上ばかり見ているので、しまいに首が痛くなつてしまつたのです。近所の子供で、ヤンマやセミとりが大好きで、しよっちゅう上ばかり見上げていたために、いつの間にか自然と、首と頭が上向きになつてしまつた子が



いました。「おほおーん、サブちゃんいるっつ」と、よんマーちゃんがぼくを呼びにきた。ガキ大将のマーちゃんも、母の前では「ちゃんを」つけるのでした。「うーん、行くべえ、もつええべ来てんべえ」と、一緒にいって行つた。ぼくはマーちゃんからヤンマの見つけ方が

長くもたせる方法を教りました。またワモの巣は、朝のやつがよくて、ときどき「ブーン」と、口にふくんで霧をふきかけると長持ちする。しまつておくときは日陰にする。ことごとく、そのほかまだいっぱい……。

木々の梢にとまっているヤンマは、中々見つけにくいのだ。葉のしげみと葉の色、枝と梢がたくさんあること、ヤンマの体がそれと似ていること、羽は透き通っているため、胴体しかほとんど見分けがつかないことなどだった。「サブいいかあ、あんまり木の下から見てもだめだかんなあ。ちよっと離れるよあー。それからよあー、それからよあー、まっすべはつかり見てもわかんなくてなあ、横の方から見るとよあー、わかん時があんだかんあ……。」と。とり終わつても少しすると、又とまっていた。木の下で、空と梢を見ながら待っている子もいた。

誰あつてか子ども頭

たとえば初夏の朝、露のおりた野原の草むらをかきわけ、葉っぱと土の匂いに鼻をひくひくさせながら、虫や魚をとりに行った時。あるいは菜の花畑に、モンシロチョウが飛んでいた時。あるいは秋の日差しの下、真っ赤なカラスワリがたれ下がり、スキの穂の上を赤トンボの編隊がいついつと飛び交つるを見ていた時……。

そんな時、あなたは思いましたか？ 俺は今日、自然と触れ合つたんだとか、あるいは、私は情操を豊かにするんだとか、または、人間性をはぐくみに行くんだ、なんて。

例えば、あの日、あの時、あの頃に、誰あつてか考えたかどうか、思ったかどうか。これを何のためにか、その価値はどうか、位置づけはどうか、そんなこと。それは、後で大人が作り、あてがい、説明つけたものなんです。子どもには、環境そのものが必要なんです。土と草と水と、そして生き物たち……。心の地下室へ、その階段をひとつひとつ下りていって下さい。そして「心のオルゴール」を聴いて下さい。そうすれば分かるでしょう。想い出すでしょう。この写真の子どもたちのような、その心、を忘れてから、もつとぐれぐれいいの月日が流れたらどうか……。

森田三郎

掲載の写真を差し上げます。ご希望の方は谷津干潟友の会までご連絡ください。

(この用紙は再生紙を使用しています)

国際ピーチクリーンアップ

国際ピーチクリーンアップに参加して

船橋市 横田 純子(17歳)

近くの川や海でゴミを拾い、その種類と数を世界共通のデータカードに記す「国際ピーチクリーンアップ」が九月二十二日、全国的に行われました。私は新聞で知り、参加を楽しみにしていました。谷津遊園にはよく行ったのですが、干潟を訪れたのは今回が初めてでした。

私は一年くらい前から環境問題にめざめて、道端で空き缶を拾ったり、家の生ゴミを土に埋めたりと、学級に紙の分別再利用を提案したりと、いろいろ挑戦してきましたが、ついつい他人は環境問題に無関心、無神経な人が多くて困るなあ、と考えてしまいました。このままでは人間が嫌いになってしまいかねないという感じのときもある。でも森田さんにお会いしてよかったです。

私が生まれたころから谷津干潟を残したい一心で、そうじし続けたきたという森田さん。「尊敬する人は？」と聞かれたら、「これからは迷わず「森田三郎さんです」と答えるだろう。」編集部から 横田さんありがとうございます。面談の記録係をつとめていただきました。本当に助かりました。

江戸川区 藤川真理(中3)

クリーン作戦のお手伝いをさせていただきありがとうございます。今までにここには何度か来ました。森田さんと一緒にこの度は今回が初めてです。私はこの干潟でゴミ拾いをしてきて驚いたことがたくさんありました。アオサもケラもフナ虫も本や写真で見ただけのものを見ることができました。ゴミをさわると虫を見ることもさわることも大嫌いな私が「ゴミを拾っている」「ケラをさわっている」という自分に驚きました。

干潟のゴミは工業用資材とか東京湾から流れてくるものが多いそうです。東京湾とそこに流れ込んでいる川はつながりません。「自然をこわしてしまっている」自然をこわしてしまっているのは簡単だけに元に戻すのは難しい。ということがよくわかり、学校では教えてもらえない貴重な体験をしました。また機会があったら必ずいきます。そしてゴミのない干潟にしたいと思うのが私の願いです。

江戸川区 藤川ひとみ(中一)

私はゴミを拾いに干潟に来たとき、「なんだ、ゴミなんてないじゃないか！らくちんらくちん」と考えていざ干潟に下りてゴミを拾いはじめるとあるある、いっぱいありました。ドロがっているのでパッと見ただけじゃ分からないけど、ビニール、空き缶、ガラスのかけら、針金、くっ下、出したらきりが無いほど……。これを森田さんが何年もやってきたんだと思うと、すごいなあ、大変だなあとつくづく思いました。

私は干潟のゴミ拾いをしてみてよかったです。学校で教えてもらえないことも教えてもらえ、人の役に立つこともできるからです。でも私が、やってよかった。森田さん、ありがとうございました。森田さんの干潟に対するやさしい気持ちにうたれたこと、自分でやるべきことが見つかった、この二つです。

また日曜日のクリーン作戦、野鳥の観察など積極的に参加し、鳥やカニがもっとも安心して暮らせるような干潟にしていきたいと思えます。

講演を聞かされた

◆憎みや批判を持っていては精神的にやっつけられないという話を聞いて、とても大切なことだけれど、なかなかできることではないと思いました。

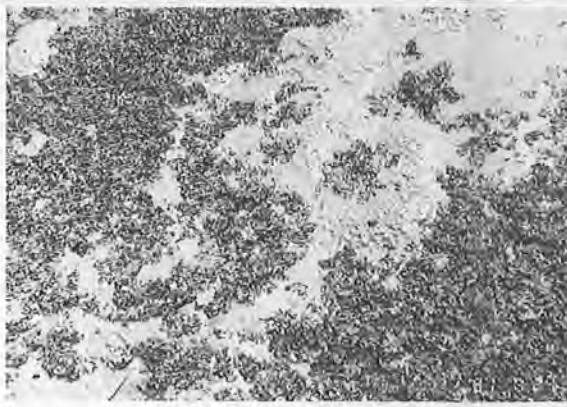
◆自分とは皆と同じ普通の人間で、恥ずかしくなかったし、欲もあるし等とお話下さって、難だかホッとしたような、その反面、こんな謙虚な言葉が出るのはやっつけやすい方だと感動し、涙がこみ上げてしまいました。

(豊中市・安藤まゆみ)

◆自分が人からどのように見られているかを気にしている自分が悔しかったというところ、今後の自分に言い聞かせたい。(八日市市・アンケートより)

9月22日に谷津干潟で拾ったゴミの種類と数

金	30	缶	133	紙	162	布	21	その他	24
類み片	3	ワイ	2	紙類	21	木	4	その他	1
類み片	3	ワイ	2	紙類	21	木	4	その他	1
類み片	3	ワイ	2	紙類	21	木	4	その他	1
類み片	3	ワイ	2	紙類	21	木	4	その他	1
類み片	3	ワイ	2	紙類	21	木	4	その他	1
類み片	3	ワイ	2	紙類	21	木	4	その他	1
類み片	3	ワイ	2	紙類	21	木	4	その他	1
類み片	3	ワイ	2	紙類	21	木	4	その他	1
類み片	3	ワイ	2	紙類	21	木	4	その他	1



黒く見えるのがアオサ

潮がひいていくにつれて、干潟の表面が緑色に染まっていく。あれ、いつの間にか谷津干潟は畑になってしまったんだらう？

正体はアオサです。昔から干潟に生えていた海藻の一種で、船橋・習志野あたりではカワナとも呼んでいました。森田さんの解説。かき集めて干して肥料にしていたこともあるそうです。

アオサを干して肥料

潮がひいていくにつれて、干潟の表面が緑色に染まっていく。あれ、いつの間にか谷津干潟は畑になってしまったんだらう？

正体はアオサです。昔から干潟に生えていた海藻の一種で、船橋・習志野あたりではカワナとも呼んでいました。森田さんの解説。かき集めて干して肥料にしていたこともあるそうです。

森田さんの講演の依頼

各地から講演の依頼

各地から講演の依頼

議会とタクシーと干潟のクリーン作戦の合同をめぐって、森田さんが講演に東奔西走ならぬ西奔西走？している。どういわけか依頼先がほとんど西の方で、遠いところは山口県の下関青年会議所から、近くは横浜をこぎや県立船橋高校と多岐にわたっているのだ。それまでも何度か講演したことはあったが、昨年の五月に講談社から、森田さんのことを書いたノンフィクションの児童書『どろんこサブウ』が発刊されて以来、大阪での「ゴミを考える全国集会」などあちこちから森田さんに講演や原稿の依頼がきているという。「僕は環境やゴミ問題の、いわゆる専門家じゃないのに」という森田さんは何が問題で、どうしなければいけない

かということ、行った先々の人達のほうがよく知っているから、人に説明したり、教えてやろうという気は全くない、講演の基本となる底流は「ただやれ」と。機を得るも得ざるも、人の評価の善し悪しを乗り越え、ひたすらやって、やって、やり抜くことだ、と話しているとか。

講演に対する反応はさまざまだが、元気が出る、やる気が出る、強いインパクトを与えられたという声が多いので、森田さんは「僕はまるで「ドリントク」か「ピタミン」みたい。ほんとうは僕も元気づけられたのにな」と言っている。

森田さんの講演日誌

09年8月 横浜をこぎ

09年8月 横浜をこぎ

09年8月 横浜をこぎ

09年8月 横浜をこぎ

【ブック案内】連合出版より読売新聞編集委員・田辺一雄著『草の根の野生保護』出版。10人の運動家の一人に森田三郎さんが載っています。ご一読を!!

ふかんど通信

発行 谷津干潟友の会
習志野市谷津3-25-11
TEL.0474-51-5044

楽園の子供達

22 絵と文 森田三郎

みんなまっ白け

貝ガラ工場

海の土手みちの近く、人の声が届くところにあった。ぼくの家から五、六分で、海へいく途中にあった。

貝ガラだらけの貝ガラ工場は、貝ガラ山にぐるりと包まれるようにして、埋もれるまっ白けにして建っていた。

ほんとうに、みんな、なにもかもまっ白けだった。働いている人も、煙突も、リヤカーも、工場も、空き地も、道もまっ白け……。

貝ガラ工場は、いつも貝ガラのにおいがしていた。海にいくときフナやドジョウ、ウナギやエビガ

二、金魚草やメダカをとりに行くとき、ぼくはそこを通っていくので、いつも見えていた。

近くに家が数軒あっただけで、まわりはヨシ野と野原と田んぼ、そして沼と小川だった。そこへいくと、子供のぼくたちの鼻には貝ガラとそれを焼くにおい、水と草のにおい、潮のにおいや土のにおいがヒコヒコと入ってきた。

工場では貝ガラをすりつぶして胡粉(ごぶん)を作っていた。四角いレンガ作りの、半分ぶっかれた煙突からは、少しばかりの白い煙がいつも、けだるそうにゆっくりと出ている。

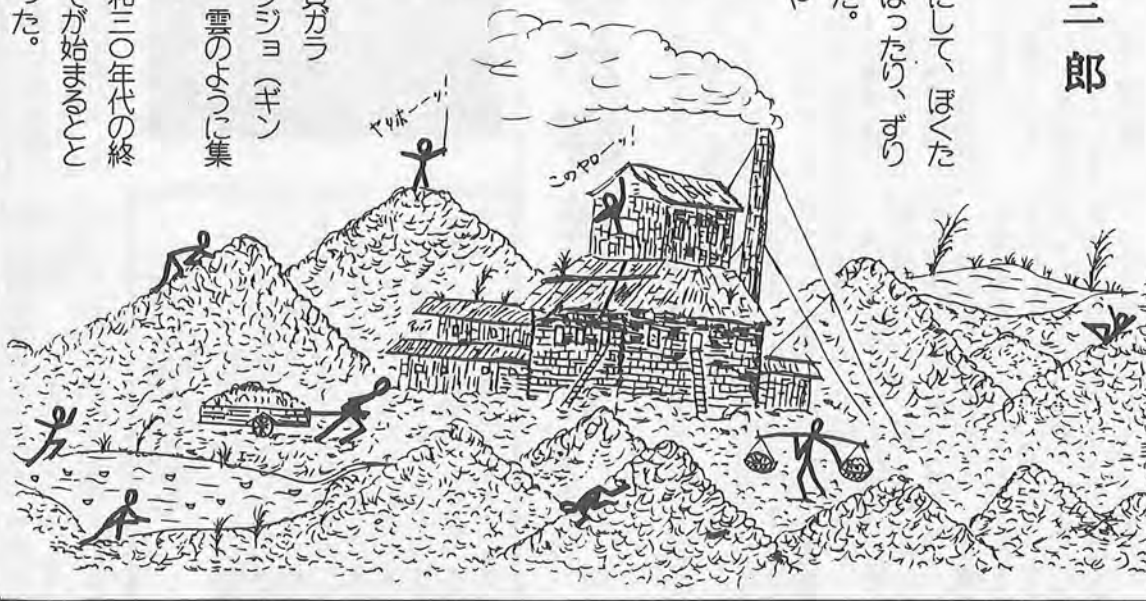
陽の光を受けた貝ガラ置場は、明るくて白っぽく、キョキョとまぶしいくらいだった。ガラガラと音をたてて、半ば崩

れ、また滑るようになってしまう。ちが貝ガラ山をのぼったり、ずり落ちたりして遊んだ。

そばにある小川や沼に、貝ガラの船を浮かべては、水門や土管を通して海に出ていくのを追った。

はだして跳んだり、はねたり、走ったり、それで足を切ることはなかった。夏の夕方、貝ガラ山の上空には、オンジョ(ギンヤンマン)の大群が、雲のように集まったものだった。

貝ガラ工場は昭和三〇年代の終わりに、埋め立てが始まることも姿を消していった。



(この用紙は再生紙を使用しております)

見た、買った、撮った! — 干潟にお客さま

セイタカシギ

いま谷津干潟では公園化のための整備工事が進められています。いたる所に塀や柵が設けられ、「工事関係者以外立ち入り禁止」の看板があります。散歩大好き人間の私にとっては、つまらない毎日が続いています。

秋が深まり冬鳥の季節になるにつれてついに我慢できなくなって、柵を

えました。そしてあの懐かしい「フロネの小屋」のあったあたりに近づくのと、なんと岸边にあのセイタカシギが佇んでいるではありませんか! しかも三羽も! 息詰まる思いで双眼鏡をのぞくと、視野一杯に拡大されて見えるのです。

こういうことがあるならカメラが欲

しい。実は私だって人なみにカメラは持っています。けれどレンズにカビが入って使い物にならないのです。「俺はカメラを買っぞ」と宣言するや、早速新宿に出かけました。

翌日からカメラぶら下げて干潟通いが始まりました。まあ、要するにその結果がこの写真という次第なのです。撮った場所は、皮肉にも干潟で最も汚らしい場所、船橋市との境界のあたり歩道の直下でした。

焼き付けた印画紙を見て独りで楽しんでるうちに、あの「どろんこサブウ」のことを思い出しました。サブウが埋め立て地で産卵したセイタカシギを見守り、ついに一家が連れ立って飛んでいく朝を迎えたあの感動的な情景を。ことによると、あのセイタカシギの子孫かもしれない、つい勝手にそんな想像をしてしまいました。

何枚かの写真を森田さんにさし上げました。しばらくしてから、視線を外すと、ふと遠くの方を見るような目つきをしていました。ことによると同じことを考えているのかな、と思いました。

(Y生)



舟だまりの「作戦始まる」

「どろんこサブウ」こと森田三郎と、その仲間による「谷津舟だまりクリン作戦」の第一回が、一月十九日の日曜日におこなわれました。新聞各紙が京葉版で書いてくれたおかげもあって、新人多数を含む二〇人以上が参加。なかには遠く成田空港近くの富里町や、八千代市、船橋市、千葉市など市外からの参加者もありました。舟だまりに隣接するマンション住民の参加もちらりありました。

舟だまりの地理

千潟の東端から北側へ約一〇〇m。水路に沿って京葉道路をくぐったところ。北側は「よしきり公園」南側は京葉道路。周囲はコンクリート壁で囲まれ、入れなくなっている。面積は水面面積約七九〇〇平米の半分が京成電鉄所有地、半分が国の公有水面。東側三二〇〇平米の陸上部分は市有地。水面へはコンクリートのゆるいスロープで下りられる。

舟だまりの歴史

昭和三八年、京葉第一期埋め立てのとき、漁船のための小漁港として周囲をコンクリートの斜面で囲って造成。ノリやアサリをとる漁船が使った。昭和四一年、袖ヶ浦の埋め立て完成で漁業権が放棄され、同四七年、第二期埋め立て開始で、現在の水路と谷津干潟とともに海が取り残されて、いまの形になる。以後、漁業はまったくできなくなり、見捨てられた。鷺沼と久々田の舟だまりは、平成元年、二年に埋め立てられて、谷津舟だまりだけが残っている。

舟だまりの資料



舟だまりのいま

千潟のいちばん奥で、下水もまだ流れこんでいる。当然、きたない。元漁民が使ったベカ舟、一輪車、家具、バイクなどが泥の底に沈んでいる。でも下水はまもなく処理場が完成して止まるし、千潟の浄化で鳥が増えている。カワウが潜って魚をとっているし、ゴイサギも来る。ユリカモメ、カモ類はたくさん来る。

舟だまりの将来

習志野市は谷津干潟という「街の中の海」がある市です。舟だまりも海の一部です。横浜市金沢区には、舟だまりをそのままきれいな公園にしている例があります。習志野でもできないはずはありません。千葉県は市川市の三番瀬を埋め立てようとしています。いったい、いつになったらは気がつくのでしょうか。



横浜市金沢区にある船だまり公園



舟だまりと市議会

平成三年九月議会で、三代川佐一議員が「谷津舟だまり埋め立ては、地域住民長年の願望」と質問。荒木市長は「問題点、課題が多くあり、慎重に取り組んでまいりたい」と答弁。一二月議会で森田議員が「隣接するよしきり公園と一体化した水辺のある公園としてぜひ残してほしい」と要望。市当局も「臭くて汚いから埋めてしまえ」というのは短絡的だったと認める。

習志野・水辺の街

いい町にはかならず水辺の風景がある。昨年アムステルダムに行く機会があった。運河の街。船で美術館めぐりのできる街だった。開いた跳ね橋の下を、車を待たせて悠然と船が通りすぎっていた。

ひさしぶりに大阪へいったら、中之島かいわいがきれいになっていたので驚いた。さて、東京は？ 残念ながら落第だ。都心の川も堀もほとんど埋められて、道路になってしまった。東京のシンボル、お江戸日本橋の上まで、高速道路がふたをしてる。こんな首都がどこにあるだろう。小さくても習志野市は文化都市だ、と胸を張りたい。谷津干潟は残った。舟だまりも残したい。(N)

町には特徴がなければなりません。習志野市を日本一の「親水都市」にできないでしょうか。埋めてしまえば、どこにもあるただの土地です。昔の舟だまりの面影をのこした水辺のある公園、できるものならば、習志野市海浜部の歴史を知るための小さな博物館を建設したい、それが私たちの夢です。人にも町にも夢はあった方がいい、と思いませんか。最後に森田さんの市議会一般質問からの言葉を引用します。

「きたないところはあります。またなくされたのです。汚れたところはあります。よごされたのです。……もしきたなくておいて、臭くしておいで、それで、きたなくて臭いから埋めろというのであれば、私たちのいう、ふるさと意識、町づくりの、その根底をなすものはなになのか？」

禱 久我義次さん

一月二日、秋津の「ジャンケンお爺さん」久我喜代次さんが八九歳の高齢で亡くなられました。久我さんは谷津千潟友の会の会員で、日本橋育ち。家の前の道を掃くときは、隣家と三尺かさねて掃くのだと教えていただきました。それ以上はいやみになると。秋津小前のバス停を掃除し、花を飾って下さいました。ご冥福をお祈りします。

谷津 千潟 自然教室から

毎月第二日曜日に開かれていた谷津千潟自然教室も、足かけ四年目をむかえました。いま千潟のまわりは工事中で、草原を駆け回ったり、オナモミの実をぶつけたりして遊ぶことはできません。また遊べるようになるでしょう。昨年、天気の悪い日曜日が多くて、あまり思うように外遊びができませんでした。今年はいよいよお天気の日曜日に恵まれますように。



★連絡先 佐藤康子 0474・72・7685

原っぱが好きです

秋津五丁目 F.M

千潟のすぐ近くに引越してきて、いちばん嬉しかったのは、都会では珍しい広い原っぱのある、のびやかな空間でした。春には「もじずり」(ネジバナ)がピンクの可憐な花を咲かせ、芦原では鳥たちが営巣し、ヒバリは空高く歌います。夏には月見草が、秋にはススキや萩がそこかしこに、草原は黄色からオレンジ色に変わります。冬には枯れ草の広い広い空間ができます。ただ木を植えて、芝を張りつけて、いつも植木屋さんの入っている公園なら、香澄にも秋津のテニスコートにもあります。今のままの、草っ原を残したい。

た公園が欲しいのです。道も舗装してほしくないのです。もともと千潟のまわりは砂地で、水はけもよく、管理もむずかしくありません。土の道の方が、歩くにも走るのにも体にやさしいといえます。鳥が土中の虫をついばみます。芦を目の敵にしないで、鳥たちのために、水の浄化のために残してほしい。千潟は自然公園ですから、野鳥園とともに野草園といったものにしたらどんなにいいでしょう。整ってはいっても少しも面白くない公園はいりません。名木もいりません。鳥や人をのびやかにさせる原っぱがほしいのです。

ふかんど通信

発行 谷津干潟友の会
〒275 習志野市谷津
3-29-11-102
Tel 0474-51-5044



楽園の子供達

23

絵と文 森田 三郎

竹ぼっぱ

ブッカシ(ぶっ壊れ) 水門を境にして、干潟と反対側の方に、野原や小川、ヨシ野や麦畑、菜の花畑などがいっぱいあったころでした。

大きな沼や小さな沼、そしていろいろな形をした沼があちこちにありました。沼には水の生き物たちだけでなく、今はこの辺で全く見られなくなってしまう、水草や浮き草が生い茂っていました。

そんな沼の中に「竹ぼっぱ」といって、フシをくり抜いた竹の棒を沈めておきました。子どもたちは、竹の匂いが水の中で消え、

緑色のコケが生えるのを待ちました。

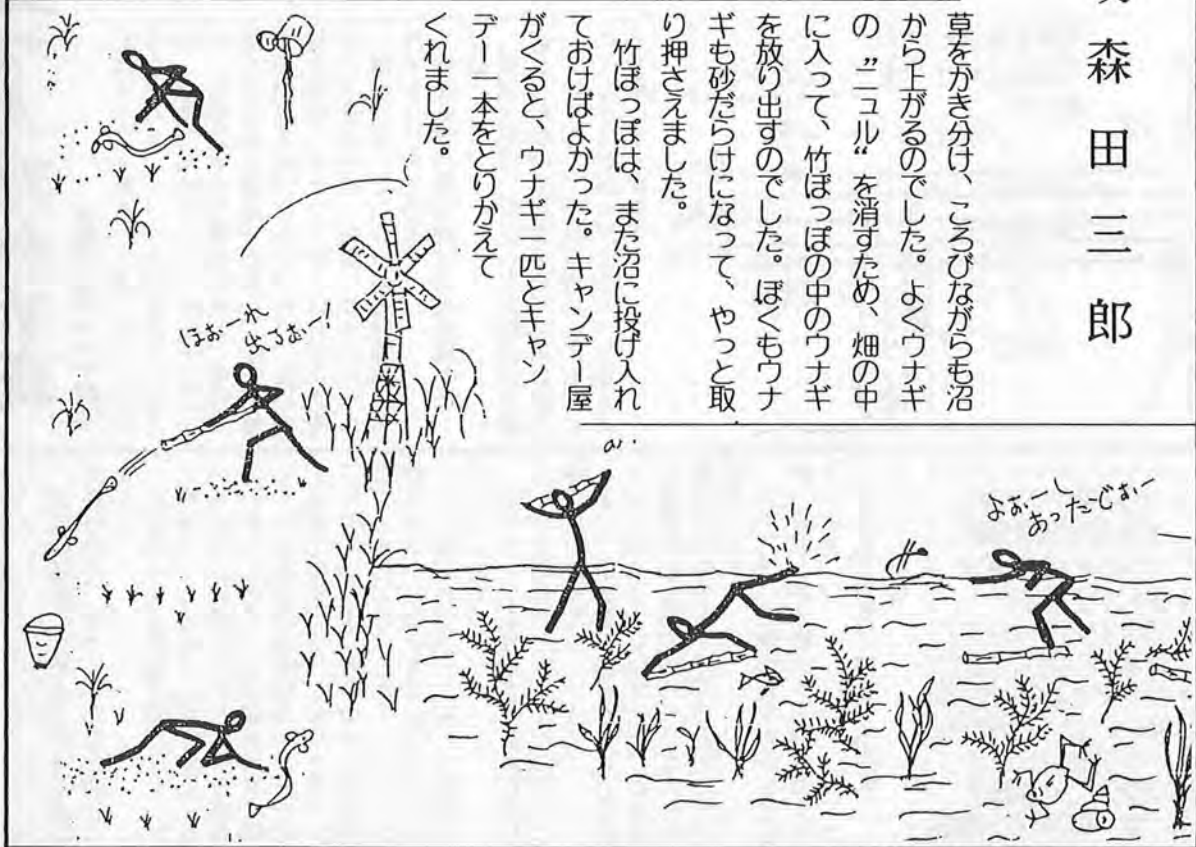
やがてぼくたちは、沼の中に飛び込んで竹ぼっぱを見つけて回るのでした。でも、沼は浅くて明るくて、気持ちがいい所でしたが、水草があんまりにも多く茂っていて見えませんでした。だから足でさぐって見つけました。

竹ぼっぱの中には、ウナギが住みついているのです。足でさわって見つけたら、水の中にもぐって、竹ぼっぱの両端を手でおさえ、持ち上げました。指と手のひらに少しのすき間を作って水をだしている、手のひらに、竹ぼっぱの中のウナギが「ツンツン」と当たってくるのです。

うれしくなったぼくたちは「あたりーっ」などといって、沼の水

草をかき分け、ころびながら沼から上がるのでした。よくウナギの「ニール」を消すため、畑の中に入って、竹ぼっぱの中のウナギを放り出すのでした。ぼくもウナギも砂だらけになって、やっと取り押さえました。

竹ぼっぱは、また沼に投げ入れればよかったです。キャンデー屋がくると、ウナギ一匹とキャンデー一本をとりかえてくれました。



バニ園の浜

森田三郎

四月二十八日(火)、快晴。定例の谷津干潟クリーン作戦の日に、白いペンキで書いて立てた。無骨な、太くて大きく曲がった流木である。

砂浜といっても、約二五センチと五〇センチの三角形のもの。今そこは一面のカニの巣穴で、カニが作る砂ダンゴだらけで、歩くとふかふかして、ジュータンの上を歩くような感じだ。

カニはチゴガニといって、私が子どもの頃、谷津干潟が「ふかんど」と呼ばれていた時代「体操ガニ」と呼んでいたものだ。ガキ大将のマーちゃんから教わった。あの頃は、広大な干潟の中で、見渡す限りにいっせいに、その小さなハサミを上下に振って「イチニツ、イチニツ」と体操していたっけ……。

我々がここに初めてクリーン作戦の足を踏み入れたのは、まだ谷津遊園が華やかだった昭和五六年の冬。

京成と交渉して、ようやくクリーン作戦のための通行が認められた。さらにさかのぼった昭和五〇年、真夜中、「谷津干潟を守ろう」の看板をかついで、園内に忍び込み、一〇本余の看板を立てたことがあった。当時の谷津遊園長は「うちの恥部です」といった。

生活・産業廃棄物と残土の中、大小の動物の骨も埋もれていた。イルカの頭ガイ骨も出た。表面のススキやアシを刈り、根をぶった切り、砂とあらゆるゴミをすくい、八百屋でもらったザルに入れ、潮水の中でフルイにかけては、砂浜を作っていた。少しずつ、少しずつと。

生きながらにして埋められていった、幾億万の遠浅の海の生き物たちよ。ゴミの間にしがみつこうように生きのびてきた体操ガニよ、せめて、この小さな砂浜で安らいでくれ。

(この用紙は再生紙を使用しています)

遊歩道への質問

昨年七月から谷津干潟を巡る遊歩道の一部が完成して、公開されました。たくさんの人たちが、安全に、楽しく干潟の景色を楽しみながら、散歩できるようにになりました。今後、観察舎が完成し、干潟の周り全部を歩けるようになるれば、ますます多くの人の憩いの場となるでしょう。街の中に海がある、という私たちの夢が実現しようとしているのは嬉しいことです。ただ、心配なのは、人が多くなればそれだけ谷津干潟に集まる鳥や生物たちへの影響もまた強くなるということです。谷津干潟クリーン作戦を展開してきた谷津干潟愛護研究会、同友の会、同環境美化委員会では、現状の施設の

谷津干潟に珍客 クロツラヘラサギ



昨年12月初めから今年お正月ごろまで日本ではめったに見られないクロツラヘラサギが谷津干潟で羽を休めていました。故郷は中国南部です。大きなまっ白い体に悠然とした態度が印象的でした。ありがとうございます。また来てね。(山岸弘夫さん撮影)

不備な点につき習志野市に要望書を提出し、以下のような回答を得ました。

Q 遊歩道のアルミの柵の下の子き間からゴミが干潟に落ちる。

A すき間を無くすよう検討する。落ちやすい。

Q 干潟東北隅(谷津南小東側)の鳥の付きやすいところで、人の姿が丸見え。観察シエルターの前に人が入って鳥を脅かす心配がある。

A 人の姿を隠す方法を具体的に検討する。シエルター前面に人が出られないように改善する。

Q 谷津三丁目前の土盛りが高すぎてカニが生息できない。

A 沈下の結果をみて、高すぎるなら対応する。



Q バラ園先の谷津公園の干潟に突き出したところで、石がたたく干潟に投げ込まれて生徒が火遊びや煙草を吸うなどの話もある。

A 人だけでなく、イヌやネコも入れない柵をつくる。石は早急に回収する。

Q 植栽が人工的すぎる。もっと高く葉が茂る木を植え、雑木林風のものやかつての海岸林に近いものにしてほしい。土がむき出しになるような除草はやめてほしい。

A 樹形はもう少し年月がたたないと風情がでてこない。長い目で見てほしい。地面がむき出しになるようなことはしない。

Q 街路灯の位置が住宅側にあつて干潟に光が入りすぎる。

A 干潟を見るときに邪魔にならない位置にしてある。強い光が干潟に入らないよう照度を下げ、灯具の高さも低くしてある。

大気汚染がいつそう深刻に 後退する環境行政

クルマの排気ガスによる谷津・秋津地区の大気汚染は、毎年、県下でもワースト1の部類に入っている。そこにさらに湾岸道路のインターチェンジを建設する計画が進んでいる。仮称「湾岸船橋インター」がそれだ。

インターが建設されれば、今以上にこの地域に車を呼び込むことにより大気汚染によって、市民の生活環境が悪化する事は、目に見えている。

それだけでなく、県道船橋・取手線の拡幅、花輪インターの千葉方面入口建設、巨大な人工スキー場、メッセの拡大、第二湾岸道路(高速も六車線)京葉港第二期埋め立てなど、環境を悪化させようという計画が控えているのだ。

なぜ湾岸習志野インターとわずかに二か所しか離れないところに、もう一か所インターが必要なのか。東京寄りの湾岸干鳥町インター(市川市)までは七キロもあり、交通量もずっと多い。

れ、「船橋インター」が習志野市内に建設されることになった。

この東関道のインター、浦安から成田まで沿線の自治体にはみんなある。船橋市が欲しいという気持はわかる。問題は場所である。なぜ、こんなに片よった場所、しかも習志野市内に作らなければならないのか、納得がいかないのだから。

信用できない環境調査

荒木市長は就任以来、私の知る限り「環境」ということをこれといって掲げたことはたいたの一度すらない。

市長は昨年六月の定例議会で、県の環境調査にもとづき「環境の質はおお

むねクリアされる」と言った。それはそうだろう。ずっと先の平成二二年で「予測」なのだ。しかもそのインターを建設する当事者の県が、環境が悪化するから建設できない、なんて調査を出せるわけがない。市は、県の調査を精査したというが、はじめから相手の土俵の中で「精査」するのだから「概ね妥当」という以外の結論は出さずもないのである。

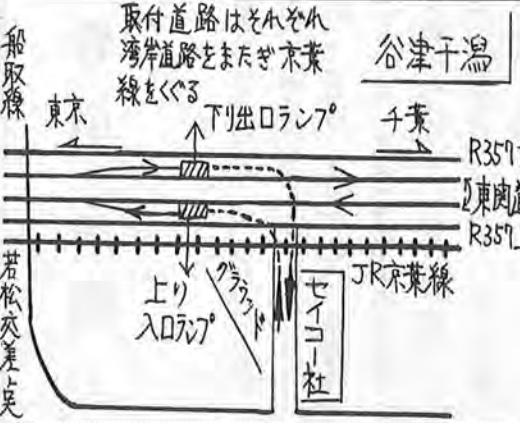
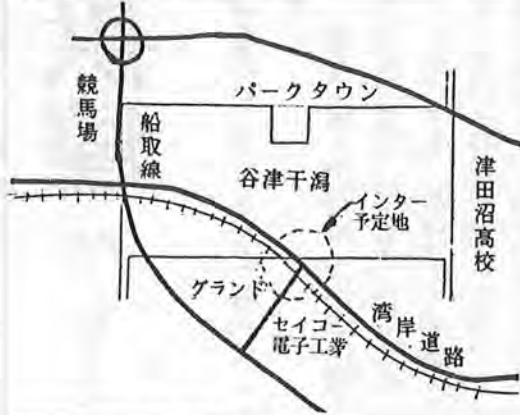
市長は習志野市独自の環境調査はしないという。

森田三郎はこれからも大気汚染や騒音から市民の生活環境を守るために努力していきます。市民の皆さんにも、このインター計画に関心をもって頂くようお願いいたします。

なぜ習志野市内に?

かつて船橋市内にインターを建設する計画が二回ほどあったと聞く。ところが計画段階で、市民や議会が排気ガスによる大気汚染と交通渋滞を理由に反対して立ち消えになったという。

ところがここに来て、人口五十四万人の船橋市に東関道自動車道路のインターがないのは不便というか、メンツにかかると考えられたか、市長同士の話し合いの席で大橋船橋市長から切りださ



赤潮とアオサ

谷津干潟は東京湾の縮図

昨年夏の赤潮はひどかった。飛行機で羽田へ帰ってきた人の話では、上空から見る東京湾奥が赤く染まっていたという。

谷津干潟には大量の死魚が打ち上げられた。新巻蛙のように大きなスズキや一五センチのボラ、ハゼの稚魚。鼻をつまんで干潟に埋めた。

アオサの繁殖もすごい。風で流されて、谷津南小側の岸に溜まって腐る。以前は干潟の一部だけだったのが、一昨年からは全面にひろがった。冬の今も枯れないで繁っている。

アオサは去年にもまして干潟を緑に染めている。干潟は引き潮のたびに削られて低くなっていく。それは一〇年以上もゴミを捨てていけばはつきり分かる。海水に浸かる時間がそれだけ長くなっていくから、アオサが生えるようになったのだと思うが、下水の流入が止まったせいかもしれない。いずれにしろ、干潟が海に近くなっている証拠だと思ふ。

干潟という微妙な生態系の保存の難しさを痛感する。アオサも赤潮も人間の排出した汚れが正体だ。谷津干潟はわれわれを写す鏡だと思ふ。(N)

NHK人生読本の反響

森田さんラジオ出演

☆九三年三月、森田さんがNHKラジオの「人生読本」に出演しました。そのときの反響の一部を紹介します。

鹿児島県串木野市 小松博明 さんからののがき

花屋の店先にも色あざやかな春の花が並び始め、春うららかな季節となりました。

NHKラジオ放送で聞かせていただき早速ペンをとりました。そして私も今年は何か行動の年にしようと思慮してましたので、夏は海水浴場に開放している砂丘の危険物や空き缶をビニール袋二袋ずつ拾ってあります。延長三キロぐらいの干潟ですので、毎日沢山のゴミが打ち揚げられて、ビニール二袋では大した効果もないようですが、チリも積もれば山となる。で頑張りたいとおもいます。

効率が上がる収集方法がありましたらハガキ同封いたしましたので、ご指導下さいませませうか。

また、市議選の費用も少しで済ませてもらえるような話ですが、どのような資金集めで調達されていますか?組織の作り方などご指導いただければ幸いです。

九州方面へ政務調査でお越しのときは、是非、串木野市へもお立ち下さいませ。

平成四年三月十四日 小松博明
モリタ三郎様

谷津干潟自然教室

毎月第2日曜日
10時30分~14時まで
谷津バラ園入口集合
だれでも参加できる
楽しい遊びと観察会
小学生歓迎します
連絡先 佐藤康子
☎ 0474-72-7865



「都市と自然 共生の場に」

谷津干潟 ラムサール条約の登録地

長年の保護運動実る
「三番瀬の色」
豊かな自然
国際的認知

ラムサール条約登録地指定確定

谷津干潟 ラムサール条約登録地指定確定

野鳥保護意識の高まり期待

習志野「谷津干潟」ラムサール条約登録へ

谷津干潟を登録湿地に

ラムサール条約登録

ラムサール条約の登録湿地

ラムサール条約の登録湿地

6月10日 谷津干潟がラムサール条約登録湿地となりました。谷津干潟はすでに国設鳥獣保護区に指定されていますが、この条約の登録湿地となることにより、国際的に重要な湿地として認知され、自治体は湿地保全の状況をラムサール条約事務局本部に報告する義務が生じます。しかし、ラムサール条約に登録されたからといって、それで谷津干潟保護運動がゴールに到達したというわけではありません。かえって、これからの維持・保全のほうが大変であろうし、その意味ではこれが新たなスタートとも言えましょう。また、谷津干潟が2本の水路でつながっている東京湾には、すぐそばに三番瀬があり、行徳鳥獣保護区もあります。今回登録指定を受けたのは谷津干潟だけですが、谷津干潟の良好な保全を考えた場合、三番瀬の環境が大きな影響を及ぼすことは言うまでもありません。三番瀬・行徳・谷津干潟は各々バラバラではなく、三位一体で考えていく必要があるでしょう。

ラムサール条約とは —
特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約
1971年にイランのラムサールで開催された会議において採択されたためこの名がある

クリーン作戦に 強力な助っ人

渋谷・日本動植物園生

4月26日、東京・渋谷にある日本動植物園の学生約一八〇名が谷津干潟のクリーン作戦に取り組みました。環境を考える校外授業として、一年生と二年生が午前・午後に分かれてそれぞれ約一時間余り、干潟の中土手の周囲を中心にゴミを拾いました。学生たちは、長靴やビニール手袋持参、汚れよけにビニールのコート着用という準備万端のスタイルで臨みましたが、中にはドロにつかまって足が抜けなくなり、森田さんに助け出される女子学生もいました。

当日拾ったゴミは小型トラック三台約5トンにもなり、ふだん細々とやっているクリーン作戦の一年分にも匹敵する量でしたが、学生たちがスポーツのノリで楽しそうにゴミを運んでいるのがとても印象的でした。

「谷津干潟」と言えば「森田さん」というくらいどっぷりと干潟に浸かっている森田三郎さんの半生記ともいえるべき本、「わが青春の谷津干潟」ラムサールへの関わりが出版されることになった。著者は本田力ヨ子さん、出版は備（ろん）書房で、6月中旬には店頭と並ぶ。

本田さんは童話作家で、以前、習志野市秋津に住んでいた当時、「ならしの朝日」の記者として森田さん取材したことがある。

この本を書いたのは、カモメの餌づけの取材の時、本田さんが童話を書いていると会員から紹介された森田さんが、「ぼくのことも童話に書いてよ」と言ったのがそもそもの発端。

それまで「変わった人」と思っていた森田さんのことを、取材や友人を通じていろいろ知っていくうちに本田さんは、森田さんの本当の姿を多くの人に知ってもらいたいと思うようになり、昭和62年、読売・カネボウ・レディス・ヒューマンドキユメンタリーの作品募集に応募した。

その際、森田さんは「資料は全面的に協力する」と約束、本田さんはそれまで書いていた童話の世界とはまったく異なった、ドロドロとした一人の男の人生と向き合うことになった。

応募作「甦れ 谷津干潟」は残念ながら大賞は逸したものの、入賞。しかし、それは本という形にはならなかった。

「わが青春の谷津干潟」出版

—ラムサールへの道—

執筆の途中、入院・手術というアクシデントもあった本田さんは、頭の中にはいつも「谷津干潟」「森田三郎」がグルグル、グルグル回っていたそうである。

今回出版を担当した斎書房は流山市にあり、千葉県人である森田さんのことをぜひ手掛けたらと思っていて、6月に谷津干潟がラムサール条約の登録湿地となるのを機に出版を進めたというのである。

本田さんがこの作品を脱稿してから5年、森田さんが母親のお腹の中に入った頃から、現在の谷津干潟になるまでの森田さんの苦闘の歴史を描き切ったとも言える「わが青春の谷津干潟」はそのモデルの森田さんと同様、長い忍耐の歳月を経て、やっと日の目を見ることになった。



東電 TEPCO プチギャラリーで
〔5月1日～5月31日〕



盛況でした

谷津干潟写真展

週刊「少年マガジン」

6月末頃2回読切で

清掃市議、サン 漫画に登場

読売新聞より

ふかんど通信

谷津干潟友の会

〒275 習志野市谷津
3-29-11-102
Tel 0474-51-5044



船橋海浜公園での三番瀬のながめ。多くの鳥が谷津干潟との間を往復している。(8月1日)

三番瀬の眺め

毎日、京葉線で通勤している。新浦安駅の手前で三番瀬の海が車窓いっぱい広がる。遠くに房総半島の山も見えて気持ちがいい。船橋から市川、浦安の沿岸に広がる三番瀬は、広さおよそ二二〇〇ヘクタール。谷津干潟の三〇倍もある、東京湾奥に残った最後の浅瀬と自然干潟だ。多くの野鳥が谷津干潟との間をいったりきたりしていることが、調査で確認されている。

浅瀬の海は、底まで太陽の光がとどき、風で波立って海水に酸素がよく混じる。魚はここで卵をうみ、稚魚がそだつ。アサリもノリもそだつ。三番瀬がなくなれば、海の汚れを食べる生物もいなくなり、東京湾の汚染はいっそう進む。

東京一極集中をやめなければならぬ、といいながら、三番瀬を埋め立てて何を作ろうというのだろう。住宅を作っても通勤人口が増えるばかりではないか。ウォーターフロントなんていいながら、その水を干し上げようとしている。埋め立て地に人工海浜をつくるお笑いはいもうたくさんだ。

(長)

楽園の子供達

25

絵と文 森田三郎

アイアンホース

たしか、小学校三年ぐらいのことだった。当時、船橋には「中央会館」という映画館があった。古い洋画が二本立てで、大人が百円で子どもが五十円かな。

ある日、いこに連れられて西部劇を見に行った。「アイアンホース」というタイトルだったと思う。映画を見て、いっぺんに気に入ってしまった。カッコいい。すげえと思った。

西部の大平原を、煙をモクモク吐いて汽車がやってくる。そして、若かげや草むらに隠れていたインディアンたちが、その汽車をめぐって襲いかかるのだ。馬にま

たがり、ホーツ、ホーツ」と叫び声を上げながら、次々と汽車にむかって矢を放つ。

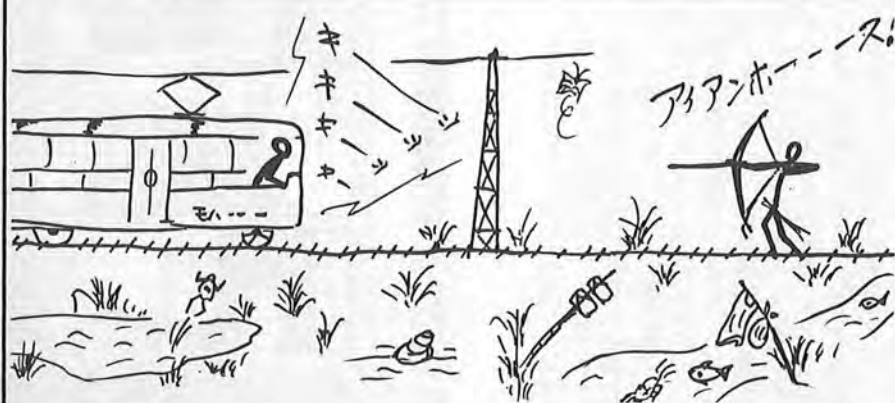
家へ帰ってから、「アイアンホース……、アイアンホース」という、その言葉を取りつかれたように思い出し、口にしてた。意味なんか全然知らなくても、その言葉だけで、じゅっぶんあの映画のカッコよさが、生々と蘇ってきた。

「矢ならオレだって使ってた。包丁やまき割りを持ち出し、手を血だらけにして、そこいらの竹を取ってきては作った。近所の牛、ニワトリ、ハチマ、鳥、セミヤトンボまでかたっぱしから標的にしていた。で、アイアンホースと同じことをやりたくなった。

のJR総武線で、当時は汽車もよく走っていた。の線路へいった。何度か土手の草むらから矢を放ったが、相手がでかすぎた。それに速すぎた。つまんなかった。

今度は家の近くの田んぼの中を走る京成電車にねらいをつけた。太神宮駅はカーブしているの、ゆっくり走っている。二、三回で小さかった。これはやりやすかった。遅いから矢が飛んでいき、当たるところがわかった。

線路に耳をあてる。駅の方で踏切の警報がチン、チンと鳴る。線路がゴトゴト鳴り、少しずつその音が大きくなる。電車が見えた。線路に突っ立ち、矢を力いっぱい引き、逃げられるところまで電車が近づくの待つ。ねらいを運転士の正面につけて、ぼくは叫ん



だ。アイアンホース!」と。頭の中は映画のこといっぱい。矢をつつすべ、線路わきにこのき、田んぼのあせ道やアシ原の中を、夢中で走って逃げていくのだ……。

ラムサール条約締結国会議に行ってきました

谷津干潟の晴れ舞台

おーい、谷津干潟よ、お前え、よかつたなあ……その場面を見たくて、確認したくて、そして参加した。

ラムサール条約締結国会議へは「谷津干潟愛護研究会」で参加申請し、オプザーバーとしての参加を許可された。NGO（非政府組織）として参加するため、経費はすべて自己負担である。「市から要請があったか」「財政的援助は？」とよく訊かれるが、そんなことはナシ。出発直前、市から議員の行政視察として旅費を出そうとの申し入れがあったが、丁重にお断りした。理由は簡潔明快。この会議、森田は議員として行くのではなく、谷津干潟の保存を願う、ゴミを拾ってきた一人の人間として、一市民として参加するからである。だいいち谷津干潟のことは、議員として、あるいは議員活動としてやってきたわけではない。

恰好と気分は国際会議

六月一日。会場は釧路港近くの釧路観光国際交流センター。会場前は約八〇カ国と言われる参加国の国旗がひるがえっていた。中に入ると、「これが国際会議か」と実感せざるを得ないほど、顔かたちや服装の違う人達でごった返していた。そして会場のいろいろなところで、市民ボラ

ンティアが気持ちよく働いていた。案内、お茶の接待、食事、清掃等々……。会場の「谷津干潟愛護研究会（NGO No.264）」席の机にはマイクと同時通訳のイヤホンが用意されており、英語、フランス語、スペイン語、日本語の四カ国語から選んで聞ける。イヤホンを耳に、恰好と気分だけは、「国際会議」である。

簡素で拍子抜けの「式典」

いよいよお目当ての「本番」だ。これを、この目で見たくて、耳で聞きたくて、来たのだ。授与式は九時三十分から九時五十分。新規登録地は五カ所始まった。「ヤツツ タイドゥランド」のアナウンサーが会場に響く。私たちは見ていた。リチャード スミスーラムサール条約締結国会議常設委員長から荒木市長へ認定証が授与された。

よしッ、これでいい、それが実感だった。谷津干潟の「ラムサール条約登録地」は、この瞬間をもって正式に決まった。

式の終了後、ロビーで市職員とたまにたま行き合い、認定証を間近で見せてもらった。意外と簡素な認定証であった。簡素といえは、認定証の授与もあっさりしたもの。各自自治体の首長に認定証をさっと手渡すだけで、写真撮影

などいっさいなし。欧米では会議の事務手続きの一部と考えているように日本のように「式典」とは考えていないとのこと。いささか拍子抜けのような感じがしないでもなかった。出発前、いろいろな報道で、参加希望NGOが非常に多いと聞いていたが、さて現地に行ってみると、各国政府席と当日受付の一般席は満員なのにNGO席はガラガラ。これは一体どうしたことがあるのか？

一つには、この会議に出席するためには一団体二〇米ドル（約二万余円）の登録費が必要だったこと。うがった見方をすれば、参加申込みはしたものの、登録費がかかったので出席をとり止めたNGOが多かったのではないだろうか。もうひとつの理由としては、この会場から少し離れたところで、NGOは別に「NGOフォーラム」という集会を開いていたのである。講演や世界各地の湿地の現状報告等あって、外

国人と共に私たちも参加した。会議やフォーラムの合間をぬって、釧路湿原、霧多布、厚岸湖、別寒辺牛湿原と、時間の許す限りラムサール条約登録地を巡り歩いた。車で走る途中野生のシカやタンチョウヅル、キタキツネに出会い、湿原の雄大さ、美しさに驚嘆し、一方、地肌を見せて開発の進みあり様に胸が痛んだ。

別寒辺牛湿原では、内地では滅多にお目にかかれないカミナリシギ（オウジシギ）の歓迎を受けた。あの、翼で風を切る独特の音を激しくたて鳴らしながら、私たちを威嚇するように何度か頭上を旋回した。カミナリシギを追って目元を足元にやると、大きなクマの足跡が点々と続いて「クマ出没注意」の立て札にギョッとされた。

アイヌの菅野さんと再会

帰路、一九八九年に私と一緒に吉川英治文化賞を受賞したアイヌの民俗学者・菅野茂氏の住む二風谷村に立ち寄り旧交を温めた。菅野氏は自費でアイヌ民俗資料館を作ったり、アイヌ語講座を主宰したりしている人物である。サケの遡上する沙流川のそばでアイヌの子供たちが、シロツメクサの首飾りをたくさんくれた。そして見知らずの私たちに「こんにちわあ」と挨拶する。「親からそう教えられたの？」と聞いたら、「違う」と。ただ「大人がみんなそうしているから」と言う。これが本場の「教育」だと思った。

こうして、谷津干潟がラムサール条約登録地として認定されるといふ、国際舞台に出るのを見届けたくて釧路に行ってきました。（森田三郎）

森田さん漫画になる!



薬害によるエイズ、チェルノブイリ原発事故、干潟の環境問題、医療問題……少年漫画雑誌「少年マガジン」が中学生と高校生に好評だ。雑誌の編集部には多いときで百以上の投書が届き、その七割以上が子供たちから。子供たちにも関心のあるテーマを漫画という親しみのあるメディアで取り上げたいと心をとらえたようだ。

硬派マンガ中高生は受けとめた



埋め立てから干潟を守った青年を描いた第6作の1カット「埋もれた楽園」(三枝雅浩画)から

社会派まんがを紹介す 10月17日付朝日新聞

今年の七月に二回にわたって『少年マガジン』に連載された社会派ドキュメント漫画「埋もれた楽園」谷津干潟ゴミと闘った二〇年」が講談社から単行本になりました。同誌は上に紹介した朝日新聞の紙面にもあるように、原発・エイズなど、社会問題を積極的にまんが化して子どもたちに訴えています。この「埋もれた楽園」にも「太陽のうた」障害者とともに歩んだ三〇年」があわせて載っています。

泥まみれで干潟清掃

1993. 9. 30
谷津干潟の清掃は、生徒連帯を促すための活動。中野の思い出を思い出し、船橋市立宮本中、習志野市立第三中、船橋市立宮本中の一年生、三〇〇人、四街道ガールスカウトの二〇人、みなさん、ありがとう。干潟のカニや鳥も喜んでくれるでしょう。

ひろがるクリーン作戦の輪

みんな、ありがとう!
首都圏に広がる重汚染干潟。この清掃は、生徒連帯を促すための活動。中野の思い出を思い出し、船橋市立宮本中、習志野市立第三中、船橋市立宮本中の一年生、三〇〇人、四街道ガールスカウトの二〇人、みなさん、ありがとう。干潟のカニや鳥も喜んでくれるでしょう。



泥まみれになりながら奮闘する生徒たち

今年の七月に二回にわたって『少年マガジン』に連載された社会派ドキュメント漫画「埋もれた楽園」谷津干潟ゴミと闘った二〇年」が講談社から単行本になりました。同誌は上に紹介した朝日新聞の紙面にもあるように、原発・エイズなど、社会問題を積極的にまんが化して子どもたちに訴えています。この「埋もれた楽園」にも「太陽のうた」障害者とともに歩んだ三〇年」があわせて載っています。

定価五〇〇円は高くない。(長)

谷津干潟自然教室 毎月第2日曜日 午前10時半 谷津バラ園前集合 参加費自由
干潟の鳥や周辺の植物の観察を、初心者向けに指導します。楽しい遊びも。弁当持参
連絡先 佐藤康子 〇四七四一七二一七八六五

ふかんど通信

谷津干潟の会

〒275 習志野市谷津
3-29-11-102
Tel. 0474-51-5044

第400回 谷津干潟クリーン作戦



1994年1月19日 第400回 谷津干潟クリーン作戦 5人の侍 (写真提供: 東京新聞)

今からおおよそ14年前。場所はJR本八幡駅北口にある飲み屋街の一角。割烹「千曲」という大衆酒場と料理屋を一緒にしたような店があった。
この店は、安くて、気楽で、午前四時頃までやってた。日本酒あり、洋酒あり、特に食い物ときは、

和・洋・中華から始まり、おでん、煮込みなどメチャクチャに何でもある店だった。
そんな店で、ある日、某新聞社の記者に「話がある」と言われた。話というのは谷津干潟のゴミ拾いのことだった。

「あなたのゴミ拾いのことだがねえ、今まで5年ほどやってきてさあ、そのゴミの種類と量といい、相当なものだよ。でもね、誰も知らない。ただのゴミ拾い」でさあ、ただやってるだけなんだよねえ。そこで相談なんだが、ここでひとつみんなに呼びかけてみないかねえ？ 協力する人が出るか出ないかは別にして。
ところで、名もない「ゴミ拾い」じゃ格好つかないし、訴えにくいんだよね。なんか名前つけてくれないかなあ……」
しばらくしてその人は言った。「そうだ、クリーン作戦——谷津干潟クリーン作戦」と名付けようよ。どうだい!？」
かくして、一九八〇年三月二三日、名もなき「ただのゴミ拾い」変じて「第一回谷津干潟クリーン作戦」が行われたのである。

クリーン作戦は現在、毎月第一・第三日曜日と第四火曜日の月三回。第四火曜日は午前中のみ。但し、これは市民に広く呼びかける「クリーン作戦」で、実際には、会員達によって毎週日曜日や普段の日もごみ拾いは行われている。拾う量と回数は普段の日のほうがずっと多い。

森田 三郎

楽園の子供達

26

絵と文 森田三郎

くずパン

「おばさん、んとさあ、くずパンある？」。そう、ほくはがラスケース越しに言った。「ああ、あるわよ」と言われると、ほくとしてうれしかった。
でも、「いまあ、ないのよね」と言われると、がっかりして、白い手ぬぐいをかぶったおばさんの顔を、ケースの下から半は見上げるようにして見ていた。

くずパンとは、その字のとおり、パンである。作り損ないのアンパンやジャムパン、ケーキやカステラ、食パンの端っここの固いところや、茸のごとであった。小学校の頃、海へ出る途中の田んぼの中に「FUSK」といつパン工場があった。今の千葉街道に面

して、海へ遊びに行く時やオンショ捕り、エビガニやイナゴ捕りするときなど、田んぼのあせ道を歩く僕たちの鼻に、ヒクヒクと体の心までその匂いが入ってきた。

くずパンは、安くていっぱいあった。ふんじき一杯5円から10円、高くても20円。くずパンの中身によって値段が違った。遊びに行くときなど、新聞やチラシにくるんだり、ポケットにギョウギョウ詰めにしてはポリポリ食べていた。

くずパンがないと言われると、何だか急に腹が減ったような気がした。で、そのまんま、また田んぼのあせ道を流れる川の中のメダカやタニシを見ながら帰っていった。くずパンが出てくるまで待って

いるときもあった。どっへ持つて帰って、母ちゃんや妹や弟を喜ばしてやんべえと思った。がっかりとみじめさでぶろしきをぶらぶらさせ、店から少し離れた



た所に行った。で、くずパンがないときのために用意してあったメロンゴやビー玉、ベーゴマを千葉街道の道はたでやりだすのだった。一人で——。
道路につばきをかきかけては、手を血だらけにしてベーゴマをはいつくばるようになってしまった。
途中で何度か店へ行って、「おばさん、くずパンまだあ？」なんて聞いていた。
雨の日には店の隣のパン工場の下で立って待っていた。そんなほくにおばさんは、「ほく、なにやってんのよ」と聞きにきた。
「うん、こつやって、くずパンできんの待ってんだあ」。「ああ、そう……。それじゃねえ、おばさんねえ、工場に行つて、パンがあるかどうか見てきてやるよあ」。そんなときもあった。
ぶろしきいっぱいのくずパンを抱きかかえるようにして、田んぼのなかの小川にかかる線路の枕木の橋を歩いて帰るうれしさはいまでも懐かしく覚えている。

1994年度 谷津干潟自然教室年間スケジュール

- 1月 9日 簡単で楽しい凧作り
- 2月 13日 面白い形の木の芽さがし
- 3月 13日 「五感ビンゴ」
- 4月 10日 「あっ！」の地図作り
- 5月 8日 春の野草観察・渡り鳥を探そう
- 6月 12日 「ピラミッド探検隊」
- 7月 10日 自然クイズ大会・すいか割り
- 8月・・・お休み
- 9月 11日 泥の中の生き物探し
- 10月 9日 バッタの人口調査
- 11月 13日 落ち葉と木の実の観察
- 12月 11日 クリスマスの飾りを作ろう

☆内容を変更することもありますのでご了承下さい。
 ☆小雨実施としますが、雨の場合は午前10時までに
 佐藤(0474-72-7865)、宮川(0474-75-4749)まで
 お問い合わせ下さい。

— 谷津干潟自然教室 —

- ・毎月第2日曜日 午前10時半～午後2時頃
- ・集合 谷津バラ園前
- ・参加費 100円 (弁当持参)
- ・干潟の鳥や周辺植物の観察をごく初心者向けに指導、楽しいゲームも。



セイタカシギ (くちばしのそりぐあいにご注意) ソリハシセイタカシギ

千客万来 谷津干潟

今冬の谷津干潟は珍鳥の飛来が相次ぎました。初冬にはソリハシセイタカシギが訪れたのははじめ、アカツクシガモ、アメリカヒドリガモ、クロツラヘラサギ、オオメダイチドリと、ニュースが流れるたびに干潟の周囲はバードウォッチャーのレンズの方列。

以前は珍鳥と言われたセイタカシギはその数も20羽近くとなり、もはや「谷津の鳥」の感、人気の的は何と云ってもたった1羽のソリハシセイタカシギのようです。

ソリハシセイタカシギは一九七九年に東京の大井埠頭(現在の野鳥公園)で越冬して以来、首都圏で確認できたのは14年ぶりとあって、遠くは名古屋や新潟からバードウォッチングに来る人も。

あちこちで浅瀬や干潟が減少している今、谷津では干潟周辺の整備が進み、立派な観察舎もできたから、鳥たちもあちこちから国旗をオッ立てて、「サア、まいりましょう、まいりましょう」と観察されにやってきましたのかしら？
 (写真：山岸弘夫)

完成間近 自然観察センター

谷津干潟周辺整備工事も着々と進み、干潟を巡る遊歩道はすでに多くの人達に利用されています。まだ工事の終わっていない干潟の西側の遊歩道も植栽が始まりました。

春の訪れとともに、谷津干潟公園の中心となる自然観察センターもその全容を現してきましたので、谷津干潟愛護研究会・友の会では、オープンに先駆けて一足先に施設の見学をしました。

建物は鉄筋コンクリート造りですが、渋い外装と、玄関や内部にふんだんに使われている木材で、温かい雰囲気になっています。

玄関を入るとすぐ、頭上に飛ぶダイシヤクシギが私達を館内へ案内してくれました。1階には、2台セットされたカメラで常時干潟の様子が見える16面のテレビ画面、企画展示コーナー、観察スペースがあります。

地階は、カニの砂だんごや本物の葦をあしらった谷津干潟の模型、図書コーナーとガラス張りの観察スペース。きれいな年輪の見える、厚さ20センチもあるうかと思われれるムク板の図書コーナーの机と椅子は、かつて草地に点々と、流木とベニヤ板でつくったテーブルとベンチを思い出させてくれました。



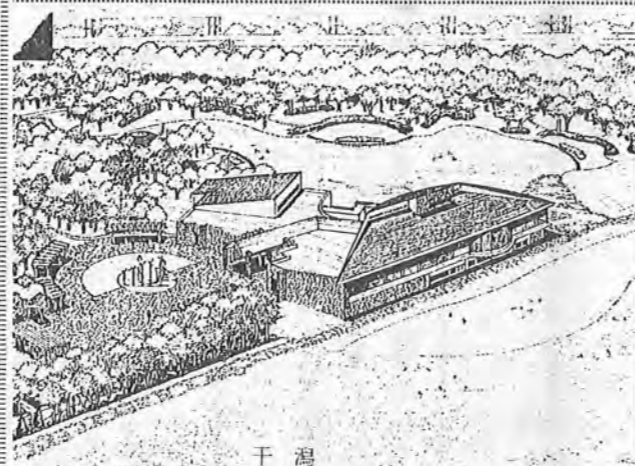
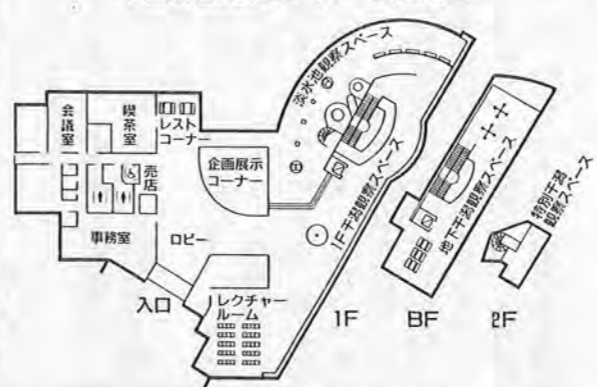
地階の観察スペースは、前面に広がる干潟の鳥が人の目の高さで観察でき、近くの鳥なら望遠鏡がなくても肉眼で十分1階、地階とも観察スペースに備えつけられている望遠鏡は、対岸のマンションのプライバシーを侵害しないよう、レンズの仰角を抑える配慮もされています。

子供たちがゲーム感覚で学べるような館内の設備もさることながら、館の裏側には淡水池やコアジサシの営巣できるような場所もつくっているとか。また、屋上にも土を入れて、そこでも営巣できるようにしたいという担当者のお話に、上から眺めるとどんな感じになるのかなと鳥になって想像してみました。(な)

・餌追ひてかもめ雲のなかに舞ふ
 谷津の干潟をバトロールする
 ・寒のさむき朝の鴨らは丘に来て
 己が背に嘴しうずめて休む
 ・干潟辺に脚立を据えた望遠鏡
 水鳥の姿写して並ぶ

谷津三丁目 阿子島 敬二

●自然観察センターご案内●



資料：習志野市

毎日新聞 2.28.

谷津干潟を訪問

十七日に来日し、北海道の釧路湿原、霧多布湿原、滋賀県の琵琶湖などラムサール条約登録地を視察中の同条約事務局次長、マイク・スマート氏(左)が二十七日、習志野市の谷津干潟を訪問した(写真)。

スマート次長は「条約への登録で谷津干潟の国際的な価値が高まった。センターは、子供たちが遊び感覚で干潟を学ぶことができる素晴らしい施設。ほかの登録地の参考になると思う」と感想を語った。

その後、干潟周辺を散策。愛用の望遠鏡と双眼鏡をのぞき込みながら、野鳥の種



楽園の子供達

27

絵と文 森田三郎

八千代橋

海老川は、ぼくが住んでいた「宮ん地」と漁師まちの境の川であった。「宮ん地」は農家がまだいっぱいあった。だから、八千代橋がかかっている海老川を境にしてまちのようすは違っていた。

新聞配達が終わると、かあちゃんとはぼくは、いつも八千代橋でおち合った。早く配った方が八千代橋のたもとで待っていた。

ぼくがかあちゃんの新聞配達の手伝いしたのは、小学校二年からだった。

夕刊だけだったが、一回配るとかあちゃんは五円くれた。その五円でアイスクャンデーを買い、八千代橋から太神宮の鳥居の前を通って、いっしょに家まで帰った。冬になると、八千代橋のそばに

焼きイモ屋——つぼ焼きが店を開いた。かあちゃん来るまで、つぼ焼きからの焼きイモの匂いに鼻をフンフンさせながら、

「早くう、かあちゃん来ねえかなあ」と、待っていた。

昭和三〇年ごろの八千代橋は、いかにも、「漁師まちの橋」という感じがしていた。ノリの季節には、橋の手すりや欄干に、端から端までまだノリがいつぱいについたノリ網がかけられていた。道ばたや原っぱにも、杭と横棒で作った所にも、あっちこっち、そこいらじゅうにノリだらけのノリ網がかけられていた。

だから、八千代橋の所に来ると潮の匂いとノリの匂いがいつぱいに立ちこめ、気持ちが悪いくらいだった。八千代橋で落ちあったかあちゃんとぼくは、よくノリ網が

らノリをむしりに行った。そしてナベいっばいのノリのつくだ煮をして、夕食のおかずにした。

その頃の漁師まちの道は、貝殻を踏みつぶした道だらけで、歩く「ジャリジャリ」貝殻のつぶれる音がした。かあちゃんもぼくも下駄だった。新聞は肩ヒモでかつ



ぎ、ぼくは麦わら帽をかあちゃんの手ぬぐいをかぶっていた。そんなある日のこと、ぼくが配達を終わって八千代橋に行くと、かあちゃんが待っていた。下の海老川の、いくつもの大きなカゴにいつぱい、黒々としたノリを入れたベカ舟をこいで行くのを見ていた。

「かあちゃん」と言おうと思ったら、かあちゃんは泣いていた。頭の手ぬぐいと髪の毛が風にゆれ、涙が頬や鼻を伝って流れていた。びっくりにして、じっとしてから、「かあちゃん、なんで泣いてんの？」と言った。「うっん、なんでもねえよ。さぶろ」と言いながら川面をしばらく見ながら、頭の手ぬぐいをこいで涙をふいて、「さぶろ、終わったかあ。帰るべえ」と言った。

遠くで豆腐屋のプー、プーというツッパが聞こえていた。「かあちゃん、またあ、ノリいっべとって帰んべよ」と、ぼくは言った。

We Shall Return!

「我々は、必ず還ってくる」ダグラス・マッカーサーの言葉である。太平洋戦争初期、フィリピンにおいて、日本軍が破竹の如き勢いで進攻したとき、オーストラリアアへと総司令部の後退を余儀なくされた彼は、決意を込めて、そう言い残して行った。

一三年前の一九八一年六月、谷津干潟を臨む草むらに「谷津干潟野鳥観察舎」を建てた。今の自然観察センターの地である。五・四畝×七・二畝のプレハブは、費用四〇万円。三〇万円は森田が、他の一〇万円は会員と市民と野鳥の会など、他の団体で出した。

土地利用の再三の要請は、千葉県企業庁に全て拒否された。通告しておいて、思い切って建ててしまった。

観察舎に何枚も内容証明付きの「撤去命令」が貼られ、そして引

きはがす、その毎日だった。険悪なムードが漂った。が、他の団体との協議結果は自主撤去。谷津干潟愛護研究会だけだったら、ガンとして押し通したであろう。二カ月の命だった。

自主撤去の時、あの夏草の中で流木の看板を立てた。そして書いた。「他日、どんな方法でか、どんな形でか知らないが、必ず「観察舎」をひき上げて、われわれは還ってくるんだ」と、決意と思いを込めて……。

そして今、我々は、観察舎は、還ってきた。

活動の原動力の源でもあった、かの遠浅の海——ふかんど——での母との想い出。去る四月二十七日再び谷津干潟をその目で見ることを願いながら、ついになんうことなく、母は逝った。(森田三郎)

ふかんど通信

谷津干潟友の会

〒275 習志野市谷津 3-29-11-102
Tel. 0474-51-5044



一九八一年八月一六日、初代の谷津干潟野鳥観察舎の撤去のあいさつを流木の看板に書く。

百聞は一実行にしかず?

谷津干潟周辺整備工事の一番初めに手がつけられたのは、谷津バラ園に隣接する芝生広場(現・谷津公園)。その広場の前面に、干潟に突き出すような恰好で観察スポットができ、その両側のコンクリートで囲った部分には、カニやフナムシなどが出入りできるように、ゴロゴロした大小の石が入れられまし



「翼に愛を」の合唱。右端の「黒一点」の男性が作詞者の淵沢督機さん。指揮は作曲者の田久保裕一さん

谷津 干潟 自然観察センターオープン

六月二十七日(月)、早くも梅雨明けを思わせる暑い日さしの中で、谷津干潟自然観察センターオープン式典が行われました。

建設大臣、環境庁長官、地元選出代議士などの祝辞がありました。政局ゴタゴタのおりから、いずれも代読。沼田県知事は本人出席でした。荒木市長を含め、どの祝辞でも、国や環境事業団への感謝の言葉はありましたが、二〇年近くもゴミを拾い続けた森田さんへのねぎらいは一言もなし。わずかに田久保市議会議長が、昭和四六年から五九年まで、五回にわたる市民からの干潟保全と、自然公園の建設の請願にふれました。

ゴミ拾い仲間としていちばんよかったのは、ママさんコーラスによる谷津干潟の歌「翼に愛を」の合唱でした。われわれの仲間、淵沢督機(ふちさわ・まさき)さんの作詞、元七中の先生などをされていた田久保裕一さんの作曲です。拍手も一番大きかったと思います。

森田さんは胸に造花もつけず、市議会議員席の後方に座っていました。さすがに感慨無量という感じで、かすかに目がうるんでいたかもしれません。淵沢さんも森田さんも、前日の日曜日、記念式典を迎える谷津干潟を少しでもきれいにしようと、泥だらけになって干潟を掃除していました。

ともあれ、総工費約一二億円、素晴らしい観察センターができました。七月一日オープンです。

書葉から久彌繁木



俳優の森繁久彌さんは、昔からの森田さんの支援者です。自然観察センターのオープンにあたって、お祝いの言葉を寄せて下さいました。ありがとうございます。

森繁久彌 謹言

谷津干潟自然観察センターのオープンにあたって、お祝いの言葉を寄せて下さいました。ありがとうございます。

谷津干潟自然教室より

数年前まで、干潟の南側、今の自然観察センターのあたりに、丸太の柱と戸で葺いた屋根の、あずまや「いそしぎ」がありました。

以前、自然教室はいつもこのあずまやが集合場所でした。まわりはそれこそ自然そのもの。鳥はもちろんです、虫、草花等々すべて教室の大切な教材でした。毎回の発見に多くの子どもやおとなたちが歓声を上げました。

三年前からは干潟の工事が始まり、集合場所がバラ園前になりました。教室の教材がなくなるのでは? と、ずいぶん心配しましたが、まだまだここに小さな自然の営みを見ることができます。

- 7月10日 西瓜割り、自然クイズ
 - 8月 お休み
 - 9月11日 泥の中の生き物さがし
 - 10月9日 バッタの人口調査
 - 11月13日 落ち葉と木の実の観察
 - 12月11日 クリスマスの飾り作り
- ★ 参加費………一〇〇円
★ 問い合わせは佐藤康子
0474-17217865まで

谷津干潟をきれいにする

市職員参加し清掃

ラムサール条約にも登録されている谷津干潟。運搬用には大きな車や一輪車、重たい道具も必要です。先月は三人が泥につかり身

千葉日報 5月26日



黙々と干潟清掃に取り組む市都市部職員

森田三郎さん。しばらくイタチごっこが続いて、やっと市は、糸で編んだ網を被せてくれました。ただ、所詮、糸は糸。半月もたたないうちに腕白どもは、またそこから石を引っぱり出してはドボン! 初めのころは穴を繕っていた市の人も、そのうち知らん顔。そんななかで森田さんは、議会で取り上げたり、市長室に現物を届けたりの悪戦苦闘。さて、時は過ぎてこの五月末、公園課の職員たちが石ころ拾いに汗を流していたと思ったら、次にはバッチリ金網が被せられました。この作業、すべて直接職員がやり、金網代が四〇数万円とか。これで当分は石ころ拾いから解放されるでしょうね。



市職員の体験から? しっかりと金網が張られた

楽園の子供達

28

絵と文 森田 三郎

イナゴとり

「おたくんちのサブちゃん、バツ夕食ってたよ。夕飯の時、かあちゃん、くめ七のおばさんがそういつていたとオしに言った。オしは「バツじゃねえ、イナゴなんだ。おばさん、バツもイナゴもわかんねえのかな」と思った。家でたった一つの赤熱電灯の下、丸いキズだらけの、醤油や煮物の汁がごびりついた丸いお膳の上には、大きな皿に山盛りしたイナゴもおかずだった。

「やんは通り道で会った人と長話したり、田んぼでもよく遠くの景色ばかり見ていた。だから家に帰ってくるかあちゃんが、「アタなんでもこれっぽちしかとれねえの?」と、よく小言を言った。でも、とおちゃんは、この池で人がはまって死んだとか、船橋が昔、海老川をはさんで五日市と十日市に分かれていたとか、土地のいわれや昔のことを歩きながら話してくれた。

「あんなあ、サブウ、いいかあ、かあちゃんは、イナゴとりがうまくいった。小さめの節くれた手でも、素早く、ヒョッ、ヒョッと捕まえていった。「かあちゃんよあ、なんでそんなえっべとれんだあ」と、田んぼのあぜ道でにぎりメシを食っている時に聞いた。

「おすれば、ウンチもオシッコもみんな出ちゃんだ」と。オしはかあちゃんとか、すげえことすんと思った。でも、オしたちのためにやってんだと思った。ドウ山の小高い丘の下の汽車みちをフオーッと汽笛を鳴らして汽車が行く。ひろおーい黄色色の田んぼを見ながら、かあちゃん、サブよあ「サブよああすこがオオド、あつちが夏見、向こうのかすんでん森が高根、田んぼが遠くにへっこんでんごが七熊だごあ」と、指さしながら言ったつけ。イナゴ



(この用紙は再生紙を使用しています)

谷津干潟友の会
〒275 習志野市谷津
3-29-11-102
Tel. 0474-51-5044

ふかんど通信



6月、二風谷で萱野茂さん(右)と森田さん萱野さんの『アイヌの碑』(朝日文庫)は、すばらしい本です。ぜひ読んで下さい。

アイヌ初の国会議員 萱野さん頑張れ

「やあ、こんにちはあ、来たよお」と私は手をあげた。

「やあやあ、お久しぶり。元氣かね。会いたかったよ。やっと来たねえ」と萱野さん。

平成元年、萱野さんと私は、共に吉川英治文化賞をいただいた。帝国ホテルでのその授賞式以来だった。来いよ、来いよといわれ、何度か手紙のやりとりはあった。

昨年、ラムサール条約締結国会議が

釧路で開かれたとき、すでに萱野さんと会うことになっていた。

日高山地は沙流郡平取町二風谷村。

萱野さんはそこに自費でアイヌ資料館を作り、館長をしている。前半生は、アイヌであることを隠していた時期もあった。が、ある日、忽然と「民族の血」に目覚めた。以後、失われてゆくアイヌの言葉、民具や武具、歴史、伝説など、北海道中を駆けめぐり、尋ね歩いた。

土地を、文化を、言葉すら奪われ続けた屈辱と悲哀。しかし、温和でおおらかな風格と人間性、握手した手の柔らかくて大きな力強い感触には、そんな歴史を感じさせるものは全くなかった。丸太と萱野さんのアイヌの家が立つ小高い丘。私たちの眼前に広がる沙流川の岸辺は、萱野さんのいう「アイヌの聖地」。そこが今、ダム建設のために水没しようとしている。

今年八月、参議院比例区の議員が亡くなり、萱野さんはアイヌ民族初の国会議員になった。十一月には参院内閣委員会、国の水産行政やダム建設など公共事業による自然破壊を批判してアイヌ語で質問し、自分で通訳した。

私も「干潟の原住民」だ。萱野さん、アイヌを北海道の先住民、原住民として認める「アイヌ新法」の実現には、はるかに谷津干潟から応援し、心から祈っております。(森田三郎)

世界的ミットウマンからの手紙 谷津 観察センターへの疑問

習志野市 荒木勇市長さま

一五年前、船橋に住んでおり、何度か谷津干潟を訪れていました。干潟でひとり黙々とゴミを拾っている森田さんがいらつしやいました。私はなにも協力することが出来なかったのですが、心から干潟の再生と森田さんへのエールを送っておりました。

そして谷津干潟がラムサール条約に登録されたニュースを読んだときには涙が出るほど感激いたしました。自然観察センターも出来たとの事で、15年ぶり、楽しみにこの地を訪れさせて頂きました。見違えるほどゴミがなくなり、きれいになった干潟、たくさんの鳥たち、そして整備され充実した内容の設備には感心しましたが、その中でふつふつと疑問が沸いてまいり、居たたまれなくなり、ペンを取りました。

確かに美しく設備の整ったところなのですが、ここでは私が期待していた感動がありませんでした。なぜこの干潟がラムサール条約に指定されるまでに至った歴史を紹介してないのでしょうか。

たった一人の森田三郎という方が、普通の常識では考えられぬほどの労苦を積み重ね、そして干潟を取り巻く市民、行政を巻き込んでいった過程を、

講演つりばなし 知識よりも心といわれて

面白かったのは、埼玉県八潮市。秘書課長から電話があったとき、「私がどんなことをやってきたか知ってますか。あなたの方のような行政とさんざん、実力行使でドンパチやってきたんですよ。そのまんまで話しますがいいですか？ それに私は環境やゴミや鳥の専門家じゃないですよ。私よりもよく知っていて、上手に話せる人はたくさんいるし、紹介しますが……」

「いえいえ、ゴミ問題、何が問題で、どうしなくてはいけないか、いやというほど知っているし、思い知らされています。そうではなくて、お願いしたいのは、そのゴミをめぐる、ナマの赤裸々の話を聞きたいのです。」

課長は、新聞や本で私のことはすでに知っていたとのこと。
……ふうん、行政も少しは変わってきたのかしら。それで、行ってあります話を話してきました。

どろんこサブ 東奔西走日誌

- 11/11 埼玉県八潮市 生活経済部課長合同研修会 「ゴミと闘った20年——ラムサールへの道」
- 2/3 新習志野公民館 千葉県公民館館長会 「わがゴミ拾いに悔いなし」
- 2/6 早稲田奉仕園 小・中学校社会科教師連続セミナー 「私と谷津干潟」
- 2/6 大阪中之島公会堂 大阪市同和教育問題研究会 「自然との共生を求めて」
- 2/17 船橋中央公民館 船橋生涯学習フェア 「ふるさとと私」
- 3/6 神戸市 ワシン研究所 「新文明をひらく」
- 3/19 富里町立富里中学校二年生 「ぼくの宝さがし」
- 4/17 習志野市 倫理研究所 倫理文化講演会 「出会い」
- 5/25 横浜商工会議所・横浜市環境保全協議会 「私のゴミ拾い」
- 6/1 習志野ロータリークラブ 「なぜゴミを拾ってきたか」
- 6/22 島根県浜田市青年会議所 「継続は力なり」
- 6/25 幕張 倫理法人会・実践経営者の会 「たった一人の闘い」
- 6/25 東京渋谷区 三基商事ワシン研究所・ミキシャバラ会 「新文明をひらく——ひとりの力」
- 6/29 千葉市 もくれんの会 「私と谷津干潟」
- 7/6 船橋市立宮本小学校 船橋市社会科研究会 「ふるさとと谷津干潟」
- 8/3 京都府 きさらぎの会 「ふるさととは」
- 8/26 習志野市谷津公民館 シコープ 「谷津干潟を語る」
- 9/30 船橋市 倫理法人会・実践経営者の会 「やりぬく力」
- 10/2 愛媛県松山市 南海放送本町会館 「自然に還る＝盟緑大切」
- 10/5 船橋市 日本大学建築学科 「どろんこサブ、大いに語る」
- 10/10 船橋市 丸山公民館 「ゴミと闘う20年」
- 10/11 岐阜県美濃加茂市 美濃加茂商工会議所 「夢美濃加茂やる気塾」 「なせば成る——感動のゴミ拾いから」
- 10/14 船橋市三山中学校 「わがゴミ拾いに悔いなし」
- 10/21 習志野市立谷津小学校公開授業 「ふるさとと谷津干潟で」
- 10/23 新習志野公民館 馬酔木倶楽部 「ふるさととは今、わがゴミ拾い」
- 11/2 船橋市浜町公民館 女性セミナー 「谷津干潟は残った！」
- 11/5 早稲田大学祭 「ゴミ拾い、たった一人の勇氣」
- 11/9 市原市 市原学園 (少年教護施設) 「なぜゴミを拾ってきたか……」
- 11/10 東京・杉並区 日本大学鶴ヶ丘高校 「どろんこサブは闘う」

27 13版 1994年(甲)

ちば 首都圏

コハクチョウの飛来
習志野市立谷津公民館

四ノ宮が五日朝に飛来して、谷津干潟に飛来したコハクチョウの飛来は、今年初めてのことです。飛来したコハクチョウは、谷津干潟に飛来したコハクチョウの飛来は、今年初めてのことです。

冬の使者が飛来
谷津干潟にコハクチョウ

飛来したコハクチョウ
習志野市立谷津公民館

四ノ宮が五日朝に飛来して、谷津干潟に飛来したコハクチョウの飛来は、今年初めてのことです。飛来したコハクチョウは、谷津干潟に飛来したコハクチョウの飛来は、今年初めてのことです。

市政40周年を祝って?

谷津干潟、この東京湾の中で、奇蹟的に残った干潟。その歴史が、この干潟の何物にも換えがたい事実であり、そして他の干潟にまねのできない素晴らしい財産なのではないでしょうか。市、行政としては、この施設は自分たちが作ったとしてアピールしたいのかもしれませんが、その中で偉大な一市民の存在を抹殺してしまっていることに、激しい憤りを感じられている方は多くいらっしゃると思います。

なぜきちんと位置づけられないのでしょうか。このセンターの中には、森田さんの「も」の字も出てこなければ、数々ある本の中にも、このすばらしい谷津干潟の歴史の本も何も置いていない。このたった一人の青年の干潟を思う心、そして行動が今のこの干潟を作っているのではないのですか。きれいに整った設備より何より、その事実が人々に感動を与え、そして人々の心の中に自分に出る事は何なのだろうとの問いかけを与えるのではないのでしょうか。森田さんの行動を知った人は、ゴミを捨てるのをやめよう、身近な自然を守ろう、自分にも何か出来るかもしれない等々、何かを得て帰ることが出来るはずですよ。その、人の心を打つことが、人の心を変えることが、日本の自然環境を守ることに最も近道なのではないでしょうか。

の南極海 走り抜く

世界一周ヨットレース ただ今第3レグ
松永さん、乱文申し訳ありません。松永香



航海中マスト作業をする松永さん 朝日新聞

どうか、この谷津干潟をそこらのつまらない上辺だけのセンターにしないで下さい。干潟が残った歴史を、鳥たちと共に、この柱にして下さい。次回に訪れるときに前進している事を、強く希望致します。
平成六年八月二十四日
東京都武蔵野市 松永香

今年七月一日にオープンした谷津干潟自然観察センターは、十二月一日までに三万二千七百五十人の入場者を迎えました。当初、来年三月末までに三万人と予想しただけに、習志野市公園管理課では喜んでいました。

松永香さん は日本を代表するヨットウーマンの一人です。千葉県立磯部高校ヨット部時代にインタハイ二位。東京農大二年のとき団体優勝。一九九三、四年に世界で最も過酷なヨットレース、ウイットブレッド世界一周レースに女性乗組員だけの「ハイネケン」の一員として参加。男ばかりの艇とせりあって、南米の南端ホーン岬を回り九カ月の航海の後、六月初め、十艇中八位でゴールインしました。

今年七月一日にオープンした谷津干潟自然観察センターは、十二月一日までに三万二千七百五十人の入場者を迎えました。当初、来年三月末までに三万人と予想しただけに、習志野市公園管理課では喜んでいました。

来春の谷津干潟自然観察

子どもからお年よりまで、遊びながら自然と親しみ、おぼえていく楽しい会です。午後は初歩のバードウォッチングを指導します。お弁当持参。だれでも出来る凧(たこ)作り
1月 冬の木の芽をよく見ると
2月 楽しいネーチャーゲーム
3月 春の野草をおぼえてみよう
4月 春の渡り鳥バードウォッチング
5月 自然を探して小遠足にいこう
6月 昆虫と遊ぼう
7月 (暑いからお休み)
8月 秋の渡り鳥バードウォッチング
9月 バッタの顔をよく見てみると
10月 クイズ大会・落ち葉と木の実
11月 クリスマスの飾りを作ろう
12月 毎月第二日曜日、午前10時半、谷津バラ園前集合。会費百円
連絡先 佐藤康子 0474-72-7865

子どもからお年よりまで、遊びながら自然と親しみ、おぼえていく楽しい会です。午後は初歩のバードウォッチングを指導します。お弁当持参。だれでも出来る凧(たこ)作り
1月 冬の木の芽をよく見ると
2月 楽しいネーチャーゲーム
3月 春の野草をおぼえてみよう
4月 春の渡り鳥バードウォッチング
5月 自然を探して小遠足にいこう
6月 昆虫と遊ぼう
7月 (暑いからお休み)
8月 秋の渡り鳥バードウォッチング
9月 バッタの顔をよく見てみると
10月 クイズ大会・落ち葉と木の実
11月 クリスマスの飾りを作ろう
12月 毎月第二日曜日、午前10時半、谷津バラ園前集合。会費百円
連絡先 佐藤康子 0474-72-7865

11月5日朝、谷津干潟にコハクチョウがやってきました。日本で白鳥が飛んで来る南限は、茨城県の南部。谷津干潟にも数年一度は姿を見えますが、たいていすぐ飛び去ってしまいます。今年も残念ながら、一日滞在しただけで、またいなくなりました。

去年はクロツラヘラサギ、ソリハシセイタカシギなど、ふつうは九州あたりでしか見られない珍鳥が、冬の間 かなり長期にわたって滞在しました。冬は谷津干潟で珍しい鳥を見るチャンスです。今年はどうなお客様が来てくれるかなあ。コハクチョウさん、また来てね。